

せて食を消す(先哲醫話)

▲按ずるに玄圃梨亦酒を水にするものなり、故に能く酒毒を解すと云ふ

△百日咳の妙薬

▲惠美寧固曰、嬰兒の頓嗽には、左金丸を與ふれば愈ゆ、蝙蝠霜亦效あり。蝙蝠霜は獨聖散と名づく、片倉鶴陵は鼯鼠霜を用ひて亦效ありと云へり(先哲醫話)

▲按ずるに頓嗽は今日の百日咳なり。左金丸は黃連六兩、吳茱萸一兩、右細末と爲し粥にて梧子大に丸し、白朮、橘皮煎にて二三十丸を送下するものなり(脇痛の條下參照)

▲平野草谿曰、ある邊鄙に蜆の殻を火に焼て、極細末にして、小兒の久咳嗽、所謂百日咳に用ふるを、家の秘方とするものあり、も漢土より出でたる方にて、頗る效あり、若し小兒久咳嗽にて下痢を兼ね、面黃體羸たるものには、坭を細末にして用ひて效あること、余が發明にて、世醫の未だ知らざる所なり(病家須知)

△白虎歴節風神效方

▲香月牛山曰、白虎歴節風にて、四肢百節甚だ疼痛し、虎の噛むが如くなるに、獨活寄生湯を用ふれば、其效如神、(牛山活套)

▲按ずるに白虎歴節風は歴節風の最も劇しきの、今日の急性關節痲痺質の劇甚なるものを云ふ。獨活寄生湯は、獨活三兩、寄生(古今錄驗用續斷)杜仲、牛膝、細辛、秦艽、茯苓、桂心、防風、芎藭、人參、甘草、當歸、芍藥、乾地黄、各二兩、右十五味の水煎を云ふ。尙痛風の條下參照

▲後藤良山曰、蕪菜能く結毒骨節痛を治す、但し其臭惡多服し易からざるのみ(先哲醫話)

▲淺田宗伯曰、本船街若松屋藤次郎診を乞、其證歴節痛劇しく、熾熱妄語飲食する能はず、大小便秘澁す、醫或は傷寒とし、或は傷冷毒とし錯治效無し、余千金犀角湯加黃連を用ひ、二三日にして奇驗を得たり、爾後此方を以て熱毒歴節を治するに驗あらざること無し(橘窓書影)

▲按ずるに歴節痛は關節の遊走痛。千金犀角湯は、犀角七分、羚羊角三分半、前胡、黃芩、梔子仁、射干各一匁五厘、大黃、升麻各一匁四分、鼓三十匁、右九味咬咀し、水九合を以て煮て三合を取り、滓を去りて三度に分服するものなり、以上に黃連を加へたるものが千金犀角湯加黃連なり。咬咀は細挫を云ふ

△鼻痔及頭痛の妙藥

▲荻野臺州曰、鼻痔に瓜蒂を痛くは世の知る所、濕家頭痛する者、亦瓜蒂末を以て、紙燃に點して鼻中に入る、嚏出でて愈ゆ(先哲醫話)

▲按ずるに鼻痔は鼻茸を云ふ、瓜蒂を痛ぐの法は、聖惠方に出づ、即ち「鼻中息肉には、陳瓜蒂の末を用ひ、之を吹くこと日に三次、瘥えて乃ち止む」〓濕家とは水毒又は黴毒ある者を云ふ、蓋し傷寒論の「濕家の病、身上疼痛し、發熱面黃にして喘し、頭痛鼻塞がりて煩し、其脈大、自ら能く飲食し、腹中利して病無く、病頭寒濕に中るに在り、故に鼻塞る、藥を鼻中に内るれば則ち愈ゆ」るものにて、王宇泰の所謂瓜蒂散の證是れなり

▲原南陽曰、鼻疳には鉛丹を點しても治すべし、瓜蒂をつけると佳也(叢桂亭醫事小言)

△砒素中毒神驗方

▲片倉鶴陵曰、高濂が靈秘丹藥牋に諸物の毒に中るを解するの方を載す、白礬一錢、細茶一錢を用ひ、井花水にて調へ服す、吐出を以て妙き爲す、余近頃王槭が秋燈叢話を讀むに、曰

く萊郡の劉某僧に遇うて海上方(白礬三錢)を授かり、多效あり、其砒毒を解する尤も神驗き爲す(中略)、元周按ずるに嚴氏濟生方に、諸蟲毒に中るを治す、晉礬建茶を用ひ、瑞竹堂方に蛇蟲諸毒を療するに白礬甘草を用ふ、則ち礬石の中毒を解する諸藥に冠たるを知るべし(下略)(青囊瑣探)

▲按ずるに明の高濂が靈秘丹藥牋は、其著遵生八牋中に在り〓白礬は枯礬即ち燒明礬、晉礬は白礬なり〓細茶は挽茶、建茶は茶樹、井花水は拂曉時の新汲水なり〓嚴氏濟生方は、宋の嚴用和の濟生方、瑞竹堂方は元の薩謙齋の著、瑞竹堂經驗方を云ふ

▲多紀樸蔭曰、(前略)東都木挽街に醫西良菴有り、截瘡丸子に砒を入るゝものを製し、囊に盛りて携出し、醫を百餘里外に行ひ、數日後家に歸る、搬移の際、丸子滾轉して烟中に雜る、西之を知らず、一日装を解き烟を出して之を飲む、忽にして口中異常を覺ゆ、妻及び兒子亦之を飲むに復然り(中略)、急に解毒藥數種を服す、竝に寸效無し、遽に隣家仙臺醫官永井元菴を呼んで之を議す、元菴計の出づべき無し、偶々秋燈叢話に白礬を用ふることを記す、法の如く之を用ふ、三人便ち云ふ、藥胸に下るや頓に心腹一道の開豁を覺ゆ、竟に三人の命を救ふことを得たり、予親しく之を永井氏に聞く、寔に神驗の方也(下略)(醫臚)

▲平野革谿曰、砒霜石の毒に中りたるには、一應の藥は礬石の細末六七匁を水にかきたて、拌まぜて服しむるを可よし、人尿及び人糞汁も能其毒を解ひす(中略)、凡そ一切の毒を解するには、油に優れるものあること無し、何の油なりとも撰かみころに非はず(下略)、(病家須知)

△截瘧神驗方

▲岡田昌春曰、截瘧の治驗多からず雖も、予が先人丹羽孝徹及義父岡田昌碩の經驗する所は、百草霜、黄丹二味の方、草菓、檳榔、常山、甘草四味の方、皆露宿して川ひて頗る其效を奏するここをこ目撃せり(中略)、近來は千金恒山湯を法の如く川ひて驗あり、即ち竹葉、恒山、糯米、石膏四味の方、以上三方を商量して常に試川せり、虛證は此例に非ず、原南陽は五八霜、丸を爲し一錢、發日早且空心に服さしむこ、予亦已上三方の外に此方を用ひて功を奏せり(中略)、皇國の醫方多くは蝮蛇を用ふ、頭尾腸をを去りて黒燒にし、之を五八霜と云ふ(五月八日に之を黒燒こするものなり)(溫知醫談)

△按ずるに瘧は今日のマラリヤハ常山はクサギ、恒山は常山の別名なりハ截瘧に五八霜を用ふること、甲斐武田氏の一族下條氏の家方なり、原南陽も亦武田家の舊臣なるを以て、其所傳あるものなるべしと云ふ

▲淺田宗伯曰、近來西洋者流、機那鹽を以て截瘧の要藥とす、然れども屢々用ひて屢々發する者、余に在つては則ち五八霜を用ひて百發百中を得たり、是れ即ち邪氣を收滯するこ揮發するこの別なり、醫たる者亦知らずんば有るべからず(溫知醫談)

△喘息の妙方

▲華岡青洲曰、喘息劇しき者には、麻杏甘石湯、或は麥門冬湯方中に、沒食子を加へて效あり、蓋し沒食子能く胸中の膠痰を祛る、而して世醫知る者鮮し矣(先哲醫話)

▲按ずるに喘息に沒食子を利用するは、全く青洲の發明する所なりと云ふハ麻杏甘石湯は、麻黄三分、杏仁六分、甘草二分、石膏一匁八分、以上四味の煎用ハ麥門冬湯は、麥門冬二錢、半夏八分、人參二分、甘草一分、粳米八分、大棗六分、以上六味の煎用とすハ尙驚風痰喘の條下參照

△舌疳の神藥

▲片倉鶴陵曰、金粉散ハ舌疳を治するこ神の如し、硼砂四分、白檀五分、丹砂一錢、烏梅

いろは別處方―喘息の妙方―舌疳の神藥

五分、鬱金四分、金粉一錢、右細末ミ爲し、分つて紙撚六條に作り、先づ麻油を盞中に入れ、一條を將つて之を浸し、火を點するこゝ尋常燈火の法の如くし、別に黑豆三合を取り、水三升を以て煮て二升を取り、冷定を俟つて口中に含み、然る後に煙を嗅ぐ、若し豆汁温を得ば則ち之を換へ、日に二條を用ふ、此法岡本朴仙の祕方にして、上總圓城良庵の屢々經驗する所、予此方を得るに甚だ艱めり(中略)、今吝秘せずして之を公にす(青囊瑣探)

▲按ずるに舌疳は俗稱舌疳、即ち現時の舌痛なるも、此處には他の舌腫舌脹等と混同せるには非ざる歟

△舌瘡の妙方

▲畑金鶏曰、西涯八穂翁の舌瘡を治する方、昆布、巴豆、梅肉、凡石四味、等分を霜ミし、患所に塗れば大效あり(金鶏醫談)

▲按ずるに凡石は班石(滑石)、或は礬石(白礬)か、何れも瘡瘍に用ひたるものなり

△癬瘡の妙藥

▲畑金鶏曰、癬瘡瘰癧難き者、斷腸草根一味、搗汁を患所に敷けば、水出でて治す(金鶏醫談)

▲按ずるに癬瘡は頑癬即ち田蟲を云ふ、斷腸草は鉤吻の異名

▲片倉鶴陵曰、世癬を治するの方極めて多し、余が經驗する所既に雜病試效に載す、頃者陰癬を治する妙方を一友人に得たり、其方慈姑多少に拘らず、搗き爛して汁を取り、牡蠣の細末和し調へて患所に敷く、七八日にして必ず效あり云ふ(青囊瑣探)

▲按ずるに陰癬は俗稱インキン田蟲、慈姑はクワキなれど此處にては黒クワキ、即ち烏芋を云ふとあり

▲宇田川榛齋曰、豆腐は頑癬を治するの一奇藥なり、屢々施して屢々驗あり(下略)、(内外要論)

△疝氣の妙藥

▲香月牛山曰、諸の疝氣の症、諸藥を川ひて效無き時は、逍遙散に木香、川芎、山梔子、青皮を加へ用ひて肝經を緩むれば、立所に效あり、此奇々妙々可秘(牛山活套)

▲疝氣は今日の腸神經痛其他を云ふ、逍遙散に就ては、嘔吐の部參照

▲畑金鶏曰、青梧齋の疝毒痛を治する方、射干丸三號す、射干一錢、烏藥二錢、茯苓三錢、細末糊丸、湯服すれば立所に癒ゆ(金鶏醫談)

△消渴の妙藥

▲惠美寧固曰、救急易方に蝸牛水を以て消渴を治す、余は乃ち消渴を治するに蝸牛霜を用ひて、反つて便捷に效を奏す、因つて三國散名く、之を莊子の則陽篇に取るなり(先哲醫話)

▲按ずるに往昔消渴と稱するは今日の尿管症又は糖尿病を指せるものなりと雖も、此處にては女子の淋疾を俗稱するものに從へるが如し—莊子の則陽篇云々は「蝸なるものあり、君之を知れりや、曰く然り、蝸の左角に國するものあり、觸氏と曰ふ、蝸の右角に國するものあり、豐氏と曰ふ、時に相與に地を争うて而して戦ふ、伏尸數萬、北ぐるを逐ふこと旬有五日にして而して後反る……」云々に取れるものか

△小兒祕結の妙藥

▲平野草谿曰、蕎麥粉を生にて多服すれば、よく大便を下利す、故に小兒の大便秘結に、藥

を厭ふものには、糖霜さとうを和服まぜしめてよし、暑時あつときには水かきまぜに調ても用ふべし(病家須知)

△船暈の妙方

▲平野草谿曰、船輻ふねかじに酔ひて、眩暈頭痛、悪心嘔吐するこゝあり、酸醋を飲ましむべし、口鼻へ塗るも嗅ぐもよし、醋の中へ焼きたる石瓦にても、炭火にても投て嗅すもよし、又は硫黄いおうに火を點つけて嗅ぐもよし(病家須知)

△寸白蟲神驗方

▲尾臺士超曰、さて寸白蟲を治するには、先づ乾鯊魚一枚を香ばしく焼きて、残らず食し、若し齒の悪しき人は、嚙んで汁ばかり吸うて、滓は吐きてもよし、其後へ木香檳榔子各一錢を末にして、白湯にて送下すれば、彼蟲必ず下る也、心長に出すべし(中略)、此方は全九集中に見えたり、洵に神驗の方なり(方伎雜誌)

▲按ずるに寸白蟲は蠅蟲を云ふ—全九集は僧月湖の著書なり

▲岡田昌春曰、友人清川菖軒君カジメ云ふもの一條を贈られて曰く、此物對州産にて、彼

いろは別處方一寸白蟲神驗方

一六六

土にては一寸白蟲を患ふる人多く用ひて效ありき、直に患者に煮て食はしむるに、果して蟲寸斷して下れり(中略)、數々用ひて、寸斷の蟲出づることを得たり(溫知醫談)



いろは別本草略解

〔三〕いろは別本草略解(◎印を附せるは劇毒品とす)

▲硫黄 化学上の所謂単體なるも、天産物中には、砂石等の夾雜物を含有するを常とす、疥癩、諸蟲、老人の虛秘、婦人の陰蝕、小兒の慢驚其他に用ひられたるが、今日にても、各種の皮膚病、慢性癩麻質斯、便秘、痔疾、慢性金屬中毒、喘息等の外、吹入及薰蒸等に用ひらる

▲威靈仙 性猛きを以て威と曰ひ、功神の如きを以て靈仙と曰へるものなりと云ふ、玄參科に屬する草本威靈仙、即ち九蓋草くがいそう及鐵脚威靈仙、即ち鐵線蓮てつせんの二種あり、利尿及通經藥の外、中風、痛風、頑癬等の要藥なり

▲一角 游水類に屬するウニコールの齒牙にして、消毒、健胃、解毒藥等に用ひられたり

▲蝟皮 食蟲類に屬するハリチズミの皮にして、腸風、瀉血、五痔、陰腫等を治するものとして用ひられたり、黒燒として用ふ

▲イボタ蠟 即ち蟲白蠟なり、木犀科に屬する落葉性灌木、水臘樹に寄生する昆蟲、即ちイボタ蟲の爲に生ずる白脂を云ふ、生肌、止血、定痛、補虛、續筋、接骨等の外、瘰癧を殺すものとして用ひられたり
▲鱘鱗 皂礬及青礬等の名あり、粗製の硫酸鐵にして、黃褐色の錆は第二硫酸鐵なり、主治は略々白礬に同じとせられたるも、今日にては、傳染病の糞便、厠間の消毒等に用ふるのみ

▲**露蜂房** 山野の樹木又は土中其他に巣くひたる蜂の巢にして、雨露に曝されたるを良とす、驚瀉、痲痺、寒熱、邪氣、鬼精、蟲毒、腸痔、惡疽、附骨疽、赤白痢、遺尿、陰痿、妬乳、喉痹、重舌其他に用ひられたるものなり

▲**爐甘石** 硫化亞鉛礦及銅脈礦中に現出する炭酸亞鉛にして、少量の鐵、カルシウム、マグネシウム、及カトミニウムを含有せり、主治は止血、消腫、收濕、除爛、退赤、去翳等にして、目疾の要藥なり

▲**爐灰** 古來冬灰と稱するものにして、即ち冬月竈中に焼く所の薪柴の灰なり、醋に熱灰を和して心腹の冷氣痛及血氣絞痛等を熨し、又犬咬、溺死、凍死、諸癰疽の外、湯火傷等に用ひられたり

▲**蘆香** 百合科に屬する本族諸種植物の葉より採集せる液汁にして、古來清熱、殺蟲、涼肝、明目、鎮心、除煩の外、小兒の驚瀉疳積、濕癬、牙齦腐爛等に用ひ、今日にても之を瀉下劑及健胃苦味劑、並に通經藥として用ひらる、其成分は**蘆薈素**、**越橘斯及樹脂**等なり

▲**薔仁** 瓜蒌仁又は栝樓仁、即ちキカラスウリの實なり(栝樓の條下参照)

▲**鹿角精** 鹿角膠或は鹿角霜を言ふ乎、尙考ふべし(角石の條下参照)

▲**鹿胎霜** 葱白の黒燒なり(葱白の條下参照)

◎**巴豆** 大戟科に屬する常綠灌木の種子にして、巴蜀に産し、形豆の如くなるが故に名づく、大毒あり、古來心腹胸膈の毒を治し、兼ねて心腹卒痛、脹滿吐瀉を治する外、腸胃を蕩滌し、閉塞を開通するもの

として用ひられたり、今日の藥局方には巴豆油として登載せられ、皮膚の刺戟、誘導劑として外用の外他藥の無效の場合、頑固の便秘、鉛毒病、吐瀉症等に用ひらるゝも、大毒あるが故に漫りに之を使用せず、其成分は脂肪油、揮發油、樹脂等なり

◎**ハラヤ** 輕粉即ち伊勢白粉なり(輕粉の條下参照)

▲**薄荷** 唇形科に屬するメグサの葉にして、古來驅風、頭痛、發汗、痢疾等に用ひられ、今日にても鎮痲、鎮痛、驅風、健胃、下痢、嘔吐其他に用ひらる、其成分中には一種の揮發油及少量の單寧酸等を含む有せり

▲**白茯苓** 黒松の樹根土中に生ずる白茯苓なり(茯苓の條下参照)

▲**白蠟** 漆樹科に屬するハセの木及漆の木より採取せる蠟質にして、主としてパルミチンより成り、膏藥の原料に供せらる

▲**白芍** 白芍藥なり(芍藥の條下参照)

▲**白蛇** 白花蛇又は蕪蛇と稱する龍頭虎口、黒質白花脇に二十四個の方勝文、腹に念珠の斑ある有毒蛇にして、諸風破傷風、小兒風熱、驚風搐搦、瘰癧、漏疾、楊梅瘡、痘瘡其他に用ひられたるものなり

▲**白礬** 化學上の所謂硫酸アルミニウムカリウムにして、枯礬、晉礬、即ち燒明礬を云ふ、除風、殺蟲、驚瀉、黃疸、血痛、喉痹、齒痛、風眼、鼻中瘰癧、崩漏脫肛、癰疽疔腫、蟲獸咬傷、解毒其他に使用せ

られ、今日にても止血收斂薬として用ひらる

▲**白豆蔻** はくく 薑荷科に屬する本植物の種子にして、嗜雜、嘔吐、溜飲、肺病等に用ひられたり

▲**白扁豆** 荳科に屬するフナマメの種子にして、霍亂吐痢止まざるを治し、酒毒、河豚毒を解するものとして用ひられたり

▲**白角豆** 荳科に屬する白角豆しろまぎにして、益氣補腎健胃等の外、消渴、吐逆、泄痢、小便數を止め、鼠莽毒を解するものとせられたり

▲**白膠香** 漆樹科に屬する楓の樹脂にして、解毒、止痛、吐衄血、咯血、風癩、癰疽、金瘡其他に用ひられ、古來外科の要薬なり、其成分はマスチキス酸及マスチシ子等なりと云ふ

▲**白梅花** 薔薇科に屬する梅の花にして、小兒の痘疹出でず起らざる者を治する外、梅花湯として神思を清くする爲に用ひられたり

▲**白頭翁** 毛茛科に屬するオキナ草の根を曝乾せるものにして、熱毒、血痢、温瘧、寒熱、齒痛、骨痛、鼻衄、禿瘡、癩疔、血痔等に用ひられたり

◎**白桃花** 薔薇科に屬するモ、の白花にして、毒あり、水氣を除き、石淋を破り、大小便を利し、腫滿、心腹痛、禿瘡、宿水、痰飲、積滯、諸瘡、面皰等を治するものとして用ひられたるが、故猪子醫博は之を煎劑又は浸劑として用ふるに、下泄の效ある旨を説けり、武州所澤産のもの佳なりと云ふ

▲**白芥子** 十字科に屬するカラシ菜の種子にして、發汗、散寒、温中、開胃、利氣、豁痰、消腫、止痛の外、咳嗽、反胃、癆木、脚氣、諸痛等に用ひられ、今日にても皮膚刺戟劑として、諸種の疼痛、咳嗽發作の外、香味料及吐劑に用ひらる、其成分は脂肪油の外、ミロン酸加里、ミロシン等なり

▲**髮灰** 人の梳髮を黒燒にせるものなり(亂髮の條下参照)

▲**藤蘿** 石竹科に屬するハコメの葉莖にして、惡瘡痔疾の外、血を破り乳汁を下すものとして用ひられ、民間療法としては盲腸炎に奇效ありとして用ひらる

▲**礬石** 白礬即ち燒明礬を云ふ(白礬の條下参照)

▲**凡石** 斑石即ち滑石なるや、或は礬石即ち白礬なるや、未だ考へ得ず、何れも之を諸瘡に用ひたることは、各條下に略記の如し

▲**反鼻** 爬蟲類蛇類の管狀毒牙族に屬する蝮蛇にして、古來滋養強壯劑として、惡血を破り、眞血を動かすものとして用ひられたり、勝呂清一氏に據れば、剝皮乾燥せる蝮蛇の脂肪は、パルミチン及ステアリンの混合物の如く、又酒精浸出液中には、二種の結晶體中、其一はタウリンなりと云ふ、其黒燒は之を五八霜と稱す

◎**半夏** 天南星科に屬するカラスビシヤクの塊根にして、半夏麴、豆、麴下、大々、粒半夏等の數種あり、古來鎮咳、鎮嘔、咽喉腫痛、心下堅痞其他に用ひられたり

◎馬醉木 石南科に屬するアセビの葉にして、牛馬之を食へば酔へるが如く、鹿之を食へば時ならざるに角解す、故に名づくると云ふ、外用として殺蟲劑及毒蛇咬傷等に用ひられたり、其有毒性は未詳なるも、アンドロメドトキシンと稱するものなりと云ふ

▲芭蕉根 本草名甘蕉、即ち芭蕉科に屬するバセラの根にして、主治は癰腫結熱、産後血脹、黃疸、消渴、頭風、一切の腫毒等とせられたり

▲貝母 百合科に屬する母栗はくりの根にして、虚勞、煩熱、咳嗽、上氣、吐血、肺癆、肺癰、喉痹、目眩等に用ひられたり

▲芒硝 即ち朴消、今日の硫酸曹達なり(皮硝の條下参照)

▲梅肉 薔薇科に屬するウメの果肉にして、刀箭傷、止血、乳癰、腫毒、除痰、中風、驚癇、喉痹、瀉痢、煩渴、霍亂、吐下、下血、血崩其他に用ひられたり(尙烏梅の條下参照)

▲防己 防己科植物の根にして、漢防己及木防己の二種あり、和名アヲツラの根を漢防己と稱し、其莖莖を木防己と稱すと云ふ、古來風水の要藥として廢理を通じ、九竅を利し、下焦血中の濕熱を瀉する等に用ひられたり

▲防風 繖形科に屬するハマスガナの根にして、眞防風、濱防風、白川防風、五島防風等あり、驅風發汗、頭痛、骨節疼痛、風赤眼、四肢攣急、脊痛項強等に用ひられたり

▲蕃椒 茄科に屬するタウガラシの果實にして、慶長中南蠻より舶載せるを以て又ナンマンの名あり、品種頗る多し、疝氣を治し、蟲を殺し、西瓜中毒を解するものとして用ひられ、今日にても引赤藥、含嗽劑、痲鈍性消化不良、風氣膨滿、間歇熱等に用ひらる、其成分は辛味の樹脂(カプシシン)、蠟分、色素及類等なり

▲蕃椒 蕃椒に同じ

▲麥芽 禾本科植物に屬する大麥もやしの莖にして、消化兼滋養劑として用ひられたり

▲麥藥 麥芽に同じ

▲麥粉 禾本科に屬する小麥の粉にして、補中益氣、五臟を和し經絡を調ふ、又炒一合湯にて服すれば下痢を斷つ、醋にて熬り膏となせるものは、一切の癰腫湯火傷を消するものとせられたり(尙浮麥の條下参照)

▲麥門冬 百合科に屬するシヤノヒゲ及ヤブランの根にして、潤肺、強精、瀉熱、祛痰鎮咳、嘔吐、瘧瘵等に用ひられたるが、和蘭藥鏡には之を炒列布に代用すべしと言へり

▲乳香 橄欖科に屬するボスウエリア屬の樹幹より滲出せしめたる液汁の凝固せるものにして、耳聾、中風口噤不語、婦人血氣、諸瘡、驅風、止痛其他に用ひたり

▲忍冬 忍冬科に屬するスピカツラの葉にして、花には甘味あり、小兒の好んで吸ふ所たるが故に此名

あり、又冬季にも凋まざるを以て忍冬と名づくこと云ふ、古來専ら瘡毒及諸瘡に用ひられたるものなり

▲人參 人蔘、又單に參とも云ふ、其他異名多し、五加科に屬するカノニレグサの根にして、古來萬病の聖藥として用ひられたるものなり、其成分は未だ研究中に屬すと雖も、ガリクス及藤谷功彦氏に據れば、黄色或は雪白無晶形の粉末たるパナクイロンと稱するものなりと云ひ、朝比奈博士及田中文太氏に據れば、殆ど白色或は微黄色無晶形の粉末たるサポニン質なりと云ふ

▲薔薇 香蒲科に屬するガマの花粉にして、古來利尿、打撲損傷、瘡癬諸腫の外、一切の血病、崩帶、洩精其他に用ひ、殊に止血藥としては、最も廣く利用せられたり

▲硼砂 化學上の所謂硼酸ナトリウムにして、又蓬砂とも書す、古來痰熱喉痹、噎膈、積聚、結核、目翳、骨髄其他に用ひられたるが、今日にても防腐、利尿、通經、緩性收斂藥等に用ひらる

◎鳳仙草 鳳仙花科に屬する鳳仙花にして、花實莖根共に之を用ふ、古來骨髄、竹木刺等に用ひられたるものなるも、小毒あり、支那及我九州地方にても、之を以て瓜を染むるが故に、染指草即ちツマクレナキの稱あり

▲牡丹皮 毛茛科に屬する牡丹の根皮にして、三年以上を経たるものを用ふ、主治は月經不順、痔核、吐衄等なり、長井博士及田原博士に據れば、其成分中にはベオノールと稱する一新化合物、及安息香酸、脂肪酸等を含むと云ふ

▲牡蠣 瓣鳃類中單柱類に屬するカキの貝殻にして、盜汗自汗、夢精遺精、制酸健胃劑として用ひらる、其主成分は炭酸カルシウム、磷酸カルシウム、及珪酸、動物質等なり

▲鱉血 水禽類中扁背類に屬するアヒルの血にして、野葛、生金、生銀、丹石、砒霜、射工の諸解毒藥として、又中惡及溺水死者の回生藥として用ひられたり

▲鼈 按ずるに鱉は俗字なり、龜鼈類に屬するスッポンにして、體を温め血を生じ、内を充たし、痔脫肛を治し、盜汗を止むる等に用ひられたり

▲鼈甲 前記スッポンの甲にして、古來血の道、及癆瘵等に用ひられたり

▲米泔 米の磨ぎ汁即ち俗に云ふ白水なり、氣を益し煩渴霍亂を止め、毒を消す、鴨肉を食して消せざる者、頓に一盞を飲めば則ち消する旨、本草綱目に見えたり

▲蝙蝠霜 翼手類に屬するカウモリの黒焼にして、久咳、上氣、久瘧、瘰癧、金瘡、小兒驚風、五淋、帶下其他に用ひられたり

▲杜中 大戟科に屬するマサキの樹皮にして、強壯藥として用ひられたり

▲杜松 松柏科に屬する子ツ又は子ズミサシにして、祛痰、驅風、痛風、疝痛、留飲、水腫等に用ひられたり、今日の藥局方には杜松木タール、杜松實として收められ、慢性皮膚病、鱗屑疹、痒疹、疥癬、皸癩質斯等に外用し、稀には内用に供せらる、其成分は揮發油、樹脂、護謨、糖分及蠟分等なり

▲菟絲子 旋花科に屬するチナンカヅラの子實にして、古來強陰益精、五勞七傷、消渴、白濁遺精、小便淋瀝、小便赤濁、身面平腫、穀道赤痛其他に用ひられたり

▲燈心 燈心草科に屬するキの全草にして、肺熱を清くし、小腸を利し、氣を通じ、血を止め、五淋水腫を治するものとして用ひられたり

▲桐葉 玄參科に屬する桐の葉にして、浮腫、癰疽、髮落不生、髮白染黑等に用ひられたり

▲藤癩 荳科に屬する紫藤の癩にして、利尿劑に用ひられたり、若葉は之を食用に供すべく、花は酒毒を解す、又器物に酒酢の附きて黴びたるは、花にて擦りて妙なりと云ふ

▲豆腐 水に浸せる大豆を碾き碎きて其液を煮、袋に入れて搾り苦鹽を加へて水を去り、凝固せしめたるものにして、寬中益氣、脾胃を和し、脹滿を消し、大腸の濁氣を下し、熱を清うし血を散する外、赤眼腫痛、杖瘡青腫等に用ひられたり

▲刀豆子 荳科に屬するナタマメの種子にして、中を温め、氣を下し、嘔を止め、腎を益すものとして用ひられたり

▲冬瓜子 葫蘆科に屬するトウグワ、俗稱トウグワンの種子にして、益氣耐老、結氣、黒黥、腸癰等の外、能く肌膚を潤し、顔色を悦澤ならしむるものとして用ひられたり

▲砂礫 即ち硫酸アムモニウムにして毒あり、食を消し、痰を破り、膈噎、癆瘵を治し、子宮を暖め腸

事を助くるものとして用ひられたるが、今日にては腺腫に外用し、慢性淋疾の注入料として應用する外、氣道加答兒の吸入料等に用ひらるゝも、主として發熱せざる粘膠痰ある者の祛痰劑、又氣管支加答兒を兼ねる胃加答兒に供せり

▲獨活 繖形科に屬するシ、ウド一名イヌウドの根にして、専ら傷風、頭痛、頭眩、目眩、瘧癘、濕痹、奔豚、癩疔等を治するに用ひられたり

▲土茯苓 奇異、地茯苓、山歸來等異名多し、本草綱目に曰く「土茯苓山谷に生ず、蔓生草の如く、莖に細點あり、其葉對せず、狀頗る大竹葉に似、質厚くして滑、瑞香葉の如く、長五六寸、其根狀菝葜の如し、云々」、一本堂藥選に曰く「徹瘡、便毒、下疳、結毒、發漏、筋骨疼痛、諸癩腫を療す、及疥癬、癩瘡、諸血瘡皆用ふべし、水銀輕粉の毒を解す(中略)、又和の山歸來と稱するものあり、即ち菝葜の根なり、效力大に劣る、之を用ふるに勿れ」

▲土龍鱗 又地龍とも云ふ、即ち環節蟲類に屬する蚯蚓の黒燒にして、解熱及利尿劑の外、尙痛風、打撲、火傷其他に外用せられたり

▲地榆 薔薇科に屬するソレモカウの根にして、吐血、下血、衄血、赤痢、月經過多等に用ひたり

▲知母 百合科に屬するハナスゲの根にして、傷寒、久瘧、煩熱、瘵勞、骨蒸、燥渴、下痢、浮腫其他に用ひられたり

▲雉頭 鶉鷄類に屬する雉の頭なり、其肉は洩痢、蟻瘻に用ひられ、腦は頭瘡に、嘴は同じく蟻瘻に用ひられたり

▲竹葉 禾本科に屬する竹の葉にして、莖竹葉、淡竹葉、苦竹葉等あり、藥用には主として淡竹葉を用ふ、主治は痰熱、欬逆、吐血、消渴、中風失音不語、驚悸、驚癇、頭痛頭風、脫肛等なり、禾本科に屬するサ、グサをも淡竹葉と云ふ、主治は利水、墮胎、催生等なり

▲竹筴 禾本科に屬するハチクのおまはだにして、傷寒煩燥、噎膈、嘔吐、驚癇、肺痿、吐血、衄血、崩中、胎動其他に用ひられたり

▲竹瀝 禾本科に屬する淡竹の生鮮なるもの長さ一尺許りなるを取り、中央を火上に置く時は、其兩端より液汁滴出す、之を竹瀝と云ふ、痰を行り、陰を益し、血を養ひ竅を利し、目を明にする外、中風、口噤、痰逆、大熱煩悶、消渴、血虛、自汗等を治するものとして用ひられたり

▲竹節人參 五加科に屬するトチバ人參の根にして、竹節状を爲し、古來諸種の止血劑、及血暈血痛等に用ひられたるものなり

▲沈香 瑞香科に屬する沈香樹中に脂膏凝固し、材質を變化せしめたるものにして、水に沈むものを上品とす、霍亂、中惡、利尿、水腫、痢疾、心腹痛、血栓等を主るものとせられたり、其主成分は、依的兒竝に強酒精に溶解性の樹脂様の物質なりと云ふ

▲陳茶 古き茶なり(細茶の條下参照)

▲陳皮 芸香料植物に屬する蜜柑の果皮の陳久なるものにして、唐柑皮(俗に廣皮)、柑皮、青皮等あり、吳茱萸、狼毒、半夏、枳實、麻黃と合せて、所謂六陳の一なり、清涼、健胃、發汗等に用ひらる、谷井氏に據れば、其成分中には、ヘスペリヂンと稱する中性、無色、無味の結晶體たる糖原質を含むと云ふ

▲陳稟米 十年以上貯藏の粳米にして、腸胃を調へ、小便を利し、濕熱を去り、煩渴を除く等に用ひられたり、粳米を一日水に浸して其翌日は之を乾し、反覆すること七八回なれば、之を陳稟米となすことを得べしと云ふ

▲猪苓 楓樹其他の樹根部に生ずる一種の茸類にして、其形猪尿に類するが故に此名ありと云ふ、専ら發汗利尿藥として、又傷寒、瘟疫、大熱、消渴、腫脹、淋濁、瀉痢、痰癆等を治するに用ひられたり

▲地黃 玄參科に屬するサヲヒメの根にして、未だ曝乾せざる生根を生地黃と云ひ、蒸乾せるものを熟地黃と稱し、曝乾せるものを乾地黃と云ふ、婦人崩中、血暈、瘀血、留血、鼻衄、吐血の外通經利水、滋腎補血其他に用ひられたり

▲地骨 即ち地骨皮なり、茄科に屬する枸杞の根皮にして、古來清涼解熱、吐血、咳嗽、消渴、頭痛、胸脇痛等に用ひられたるが、更に延年長壽の仙藥として用ひられたることは、長生療養方、遐年要抄其他に見えたり、尙苦參、即ちクラ、にも地骨の異名あり

▲地膚子 藜科に屬するハ、キギの子實にして、強陰益精、利尿、雀盲其他に用ひられたり

▲地漿水 黄土の地を掘ること三尺、新汲水を沃き入れて攪濁すること少時、其澄めるを取れるものにして、泄痢冷熱赤白、腹内熱絞痛を治し、且一切の魚肉、菜果、藥物、諸菌の毒を解するものとして用ひられたり

▲藜 藜科に屬するアカザの葉莖にして、主治は殺蟲なり、故に湯に煎じて蟲瘡を洗ひ、搗爛して諸蟲瘡に塗り、癩風を去る、又疣贅黒子に點じて惡肉を蝕するに用ひられたり

◎聖産 百合科に屬するシユロ草、即ち日光蘭の地下莖にして、風癩の症に用ひられたり、其成分はジエルウキン、ウエラトロイヂン、ウエラトラルビン、セバチン、澱粉等なりと云ふ

◎莉蘆 藜蘆に同じ

▲鯉魚 喉鯉類中鯉科に屬するコヒにして、咳逆、喘促、上氣、黃疸、水腫、尿利、發汗、暴痢、催乳、反胃其他に用ひられたり

▲菘豆 綠豆即ち豈科に屬するブンドウ又ヤヘナリにして、解熱、解毒、諸瘡、湯火傷、霍亂轉筋等に用ひられたり

▲龍腦 龍腦樹科に屬する龍腦樹より析出する揮發油にして、純正及白手の二種あり、驚癇、痰逆、目赤、星翳、耳聾、鼻癢、喉痹、舌出、骨痛、齒痛、難産其他に用ひられたり

▲龍骨 土中に埋れたる死龍の骨なりと傳へらるゝも、前世界に棲息せる象類の骨の化石せるものならんと云ふ、主治は逆欬、洩痢、漏下、癩癧、驚癇、腸癰、内疽、陰蝕の外暖精益陽等に用ひられたり

▲龍眼肉 無患樹科に屬する龍眼の果肉にして、勞傷、心癆、腸風下血の外、滋養藥として用ひられたり

▲龍膽 龍膽科に屬するリンダウ、即ちサ、リンダウの根にして、肝膽を益し、邪熱を瀉し、下焦の濕氣を除くものとせられ、今日にても苦味健胃劑として用ひらる、其有效成分は、ゲンチアナ根に等し

▲遠志 遠志科に屬するヒメハギの根にして、古來強志、益智、補精、壯陽等、所謂強壯劑として用ひられ、尙鎮驚、癰疽を治し、天雄、附子、烏頭の毒を殺ぐものとして用ひられたり、其成分は未詳なるも、セチガ根中に在るセチジンと同一のものを含むと云ふ

▲乙切草 弟切草とも書す、即ち金絲桃科に屬するオトギリ草の葉莖にして、金瘡、切傷、無名腫等に用ひ、花穂は咳嗽、聲啞、肺癰等に用ひられたり、花山院の朝、鷹飼晴頼、本草が鷹の傷を癒す秘藥たるを洩すに依りて、弟某を又傷せるに立名すと云ふ

◎黃丹 鉛丹又は單に丹と稱す、鉛を酸化せしめたるものにして、祛痰、殺蟲、驚疳、瘡痢の外、解熱拔毒等熬膏必用のものとして用ひられたるが、今日の藥局方にては、硬膏及軟膏として外用に供するのみ、内用に供せず

▲黄耆 萱科に屬する黄耆の地下莖にして數種あり、諸瘡の聖藥として、又緩和強壯劑として使用したり

▲黄芩 玄參科に屬するコガネバナの根にして諸熱、咳嗽、吐血、衄血、下血、血淋、痢疾、腹痛其他に用ひらる、高橋醫博に據れば其主成分はスクテラリンと稱する黄色の絨狀或は板狀結晶體の植物鹽基なりと云ふ

▲黄蘗 黄柏即ち芸香科に屬するキハダの樹皮にして、利尿、血痢、補腎、口瘡其他に用ひられたり、其有效成分はコロソホン根、或は黄連中に含有する主成分と同一のベルベリンなりと云ふ

▲黄柏 芸香科に屬するキハダの樹皮にして、變質強壯及健胃劑としても用ひらる、其有效成分は黄連に同じきこと前條に記載の如し

▲黄米 即ち稗、餅粟なり(稗の條下参照)

▲黄連 毛茛科植物に屬する黄連、即ちカクマダサの根莖にして、菊葉黄連、芹葉黄連、細葉黄連、大葉黄連、五加葉黄連、三ツ葉黄連等あり、天行熱病、各種の痲病、眼病、傷風、結胸痞氣、殺蟲其他に用ひられたり、昔時は加賀産のものを賞用せるも、今日の藥局方にて、丹波黄連を以て規定し、收斂及苦味健胃劑として、腸加答兒、腸結核、虎列刺、赤痢等に用ひらる、其主成分はベルベリンと稱するアルカロイドなり

▲黄菊花 (菊花の條下参照)

▲煨薑 即ち炒鹽なり、古來通利、目赤、癰腫、血熱、骨病、齒痛、痰飲喘逆、結核積聚、解毒殺蟲、定痛止癢其他に用ひられ、今日にても曬法、洗滌、塗布、浴湯、吸入、皮下輸注其他に用ひらる、其主成分はクロールナトリウムにして、平均八一乃至八二%を含み、尙加里、苦土、石灰等の鹽化物及硫酸鹽類等を夾雜せり

▲阿子 印度地方に産する使君子科に屬するカタカシの實にして、樞の實に似たり、腸澀、久泄、赤白痢を止め、消痰、下氣、化食等を主るものとせられたり、没食子酸及没食子鞣酸を含有すと云ふ

▲茄子蒂 茄科に屬する茄子の蒂にして、黒燒として腸風下血、口齒瘡蟲其他に用ひられたり

▲夏枯草 唇形科に屬する十二一重の葉莖にして、瘰癧の聖藥として、又結氣、寒熱、血の道、眼病等に用ひられたり

▲蟹爪 軟甲類中、十脚類に屬する蟹の爪にして、破胞下胎、宿血を破り、死胎を下し、又産後の血閉を止むる等に用ひられたり

▲艾葉 菊科に屬するヨモギの葉にして、其艾葉より得る熟艾は古來灸點に用ひられ、又吐血、下血、調經、安胎、腹痛、霍亂、轉筋等に用ひられたり、永録以來近江の伊吹艾持映さる

▲海羅 海藻類中の鹿角菜にして、古來熱風氣を下し、小兒の骨蒸勞熱等を療するものとして用ひられ

たり

▲海藻 薬用としては専ら褐色藻門に屬するホンダハラ、又ナノリソ、即ち馬尾藻の乾燥せるものを用ふ、瘰癧、結核、陰瘡の堅聚、痰飲、脚氣浮腫の濕熱を消するものとせられたり

▲カヂメ 褐色藻門に屬する海帶（カヂメ）即ち荒布の一種にして、勝布（カヂメ）、末滑海藻（カヂメ）又相良布と云ふ、海帶に比して粗硬味劣れり、海帶の主治は催生、婦人病、療風、下水、水病、瘰癧等なるを以て、勝布にも亦類似の效あるものならん

▲河骨 本草名川骨（せんこつ）、即ち睡蓮科に屬するカウボ子の根にして、瘀血を破り新血を導き、打撲傷損、癰毒瘰癧、産後瘀血等の諸疾に用ひられたり

▲陳猪脂 即ち豚脂にして、腸胃を利し、小便を通じ、五疽水腫を除き、毛髮を生じ、冷結を破り、宿血、風熱を散じ、肺を潤し、膏藥に入りて諸瘡を生るものとせられたり、今日にても廣く軟膏の材料とせらる、其成分はオレイン六二%、マルカリン及ステアリン三八%等なり

▲蕪朮 蕪荷科に屬する本植物の地下莖にして、弘法大師の石芋と俗稱するものなり、其效三種に類似し、消痰、通經、開胃、化食、解毒、止痛の外、心腹諸痛、奔豚、疝瘕等を治するものとせられたり、揮發油、樹脂、澱粉等より成る

▲芽茶 支那鼎州に産する一種の茶にして、性味略々建茶に類するものを云ふ（ほうちや）或は芽茶即ち上品の茶

を云ふ歟、尙考ふべし

▲鱧鱖 ヒキガヘルなり（鱧鱖の條下参照）

▲角石 犀角又は鹿角を云ふ、（犀角に就ては同條下参照）、鹿角は單蹄類に屬するシカの頭角にして、熱を散じ、血を行し、腫を消し、邪を避け、尙胎漏、竹木刺、脚氣衝心、眼疾の外、専ら滋補劑として用ひられたり

▲葛根 荳科に屬するクズの根を曝乾せるものにして、發汗、解熱の外、脾胃虛弱泄瀉の聖藥たり、又傷寒、中風、頭痛、血痢、溫瘧、腸風、痘疹を療し、酒毒を解し、二便を利し、百藥の毒を殺ぐものとして用ひられたり、今日の藥局方には葛澱粉として収録せらる

▲葛粉 荳科に屬する葛根の粉末にして、古來發汗、清涼及解熱藥として用ひられ、今日にても澱粉中、葛澱粉として藥局方に収録せらる、こと前條に記載の如し

▲蛤粉 有管類中蛤科に屬する蛤蜊、即ち淺蜊の殻を火煨せる粉末にして、痰飲、積塊を化し、喘嗽を定め、浮腫、瘰癧を消し、嘔逆、遺精、白濁、心脾疼痛を止め、婦人の血病を治する外、油調して湯火傷に塗る等に之を用ひたり

▲合歡木 荳科に屬するチブの木にして、夕に至れば萎み、朝に至れば伸ぶるが故に此名あり、薬用には木皮を用ふ、主治は滋補劑の外、癰腫、殺蟲、蜘蛛咬瘡、折傷、止血、止痛等なり

▲厚朴 漢産を上品とす、和の厚朴、或は朝鮮厚朴、薩摩厚朴と稱するものは、皆ホウの樹の皮にして、一種の下部品なりと云ふ、主として温中益氣、脹滿、咳嗽、祛痰、痢疾、傷食、瀉胃、吐食等に用ひたり、長井藥學博士に據れば、漢産厚朴の揮發性芳香成分は、蒼朮中に在るアトラクチレンに類似し、又同一様の揮發性芳香性結晶體を發見せるも、和産厚朴中には未だ之を見ずと云ふ。

▲香附子 莎草科に屬するハマスゲの塊根にして、痰飲、附腫、腹痛、痞滿、霍亂、吐瀉、脚氣、癰疽、瘡瘍、吐血、便血、崩中、帶下、月候不調其他に用ひられたり、其成分中には多量の揮發油を含有せり

▲蒼蘆 燕雀類中雀科に屬するアラジにして、黒燒として之を用ふ、止血に神效あり、又能く毒を解し、食傷を治す

▲落本 繖形科に屬するカサモチの根にして、専ら婦人血の道、脹滿、頭痛、疥癬等に用ひられたり

▲粳米 即ち粳米なり、益氣、止瀉、止煩、止洩の外、霍亂吐瀉、自汗不止、卒心氣痛、小兒疳積其他に用ひられたり

▲向日葵 冬葵即ち錦葵科に屬するフユアフヒにして、二便を利し、水腫を消し、乳を下し、胎を滑にするものとして用ひられたり

▲埴 釉を施さる土燒の陶器を云ふ(伏龍肝の條下参照)

▲甘草 荳科に屬するカンザウ、即ちアマクサの根にして、諸藥の君長として國老の稱あり、諸藥を和

し、其毒を解する外、補氣養血其他の效ありとして用ひられ、今日の藥局方にては甘草蒸として丸劑の配伍料或は調味料、又は氣管支加答兒に緩和及祛痰劑として使用せらる、其主成分は甘草糖にして、尙一種の辛烈性を有する軟脂アスパラギン護膜質等を含有せり

▲甘草節 形歪斜して節ある甘草を云ふ、即ち切り込みとして販賣せらるゝものなり

◎甘遂 大戟科に屬する有毒草ナツトウダイの根にして、蚤休、金線重露、等其他異名多し、水を下すの聖藥として用ひられ、腫滿、癰疽、積聚、留飲、宿食、痰迷、癲癩其他を主るものとせられたり

▲乾姜 生姜を寒中三七日間水中に浸漬し、皮を脱して日乾せるものにして、其成分は生姜に同じ、主として驅風消化劑として用ひらる

▲乾柿 柿樹科に屬する澁柿の果實の皮を去り、日乾後瓮中に内れ、白霜を生ぜしめたるものにして、虚勞不足を補ひ、胎中の宿血を消し、肺痿、心熱、咳嗽、反胃、咯血、血淋、腸澼、痔漏、下血、咽喉口舌瘡痛等に用ひられたり

▲乾燕支 菊花に屬する紅花の花辦中に含める紅色素の乾燥せるものにして、燕脂或は臘脂とも書す、小兒の障耳、活血、痘毒其他に用ひられたり

▲乾地黄 地黄を曝乾せるものを云ふ(地黄の條下参照)

▲乾蘇葉 即ち紫蘇の葉を陰乾せるものなり(紫蘇の條下参照)

いろは別本草略解

▲乾過臘魚 喉鯉類中サケ科に屬する鮭の腸を去り、陰乾せるものにして、之をカラザケと云ふ、一本堂藥選に曰く(前略)、中古の醫人必ず退刺、葛刺、葛窟の數品を處して調血の劑と稱し、擧げて衆疾を治す、葛刺は即ち乾過臘魚なり、今や方法竝に失し、幾ど之を識る者少なく、用ふる者亦至つて稀なり(中略)、嗚呼其體を溫め血を破るの效、適に芎歸の上に在り、云々

▲漢蒼朮 漢産の蒼朮を云ふ(蒼朮の條下参照)

▲礬水石 本草名凝水石、即ち鹽のニガリの凝りたる石にして、諸熱、止渴、水腫、眼疾其他に用ひられたり、其成分は結晶性の炭酸カルシウムなり、又石膏に寒水石の異名あり

▲廣東人參 其形略々朝鮮人參に類するも、眞の人參に非ずして、菊科植物に屬する三七草の根なり、能く血を散じ、痛を定め、吐血、衄血、血崩、血痢、目赤、癰腫を治し、金瘡杖瘡の要藥として用ひられたり、又金魚の妙藥として金魚愛養家の秘藥なり

▲薏苡 禾本科植物に屬するハトムギなり、即ち薏苡仁は鳩麥の子仁にして、川穀の實に非ず、水腫瀰痹、脚氣疝氣、泄痢熱淋、肺癰肺痿、吐血、又風熱、筋急拘攣等を治するものとして用ひられ、今日にても尙内外用として、疣の藥に用ひられ、又炭酸グアヤコールと伍して、肺結核に使用せる者あり、其成分は水、蛋白質、脂肪、可溶性炭化炭素(澱粉、デキストリン、糖質グリュコース等)、纖維、灰分等にして、蛋白質を有するの多き、他穀の能く之に及ぶもの無し

▲當歸 繖形科に屬する大芹の根にして、其成分は未詳なるも、古來通經清涼劑として用ひられたり

▲桃葉 薔薇科に屬するモ、の葉にして、主治は足上癩瘡、身面癩瘡、女人陰瘡、小兒傷寒、腸痔出血、頭風、霍亂腹痛、二便不通等なり

▲桃花 (白桃花の條下参照)

▲桃核 薔薇科に屬する桃の核仁にして、咳嗽、血病及痛風等に用ひられたり、少量の苦扁桃油等を含むと云ふ

▲澤蘭 菊科に屬するサハヒヨドリノ葉莖にして、調經及水腫等に用ひられたり

◎澤漆 大戟科に屬するトウダイグサの葉莖にして、祛痰、解熱、鎮咳、消腫其他に用ひられたり

▲澤瀉 澤瀉科に屬するサジオモダカの根にして、消渴、嘔吐、瀉痢、淋瀝、尿血、洩精、痰飲、腫脹、疝痛、脚氣、濕熱其他に用ひられたり

▲糯米 即ちモチ米にして、脾肺の虛寒を補ひ、大便を堅うし、小便を縮め、自汗を收め、痘瘡を發す(其毒を解して膿に化するを取る也)る等の能ありとせられたり

▲大黃 蓼科に屬する宿根草の根莖を乾燥せるものにして、唐大黃(支那産)、眞大黃(本邦産漢種)等あり、支那産最も賞川せらる、野大黃と稱するは羊蹄根にして全く別種なり、痢疾腹痛、裏急後重、傷寒時疫の潮熱、腸間の結熱、一切の癰瘡、下疳、便毒、結毒關節痛、膿淋、痔疾、疥瘡其他の諸瘡、黃

疸、癰癤痞疔、宿食習飲、婦人瘀血、小兒遺毒、頭瘡其他に用ひられ、今日にても尙健胃劑及下劑として用ひらる、其有效成分はクリソファン酸、エモイデン及アポレチン、エリスロレチンと稱する二種の樹脂質並に苦味質、單寧、没食子酸、揮發油、澱粉、蓆酸、石灰等なり

▲大薊 菊科に屬する山薊やまあざみ或は鬼薊おにあざみの地下莖及葉にして、能く血を破り、又吐衄血、崩中、下血を止め、兼れて腫腫を療するものとせられたり

▲大蘇 百合科に屬するニンニクの球根にして、寒濕、中暑、瘟疫、癰腫、癰積、殺蟲、鼻衄、其他に用ひられたり、其成分は揮發性の含硫油及大蒜油なり

▲大麥 禾本科に屬する大麥にして、消渴、除熱、益氣、調中、平胃、脹滿等に用ひられたり

▲大棗 鼠李科に屬する棗の果實にして、補中益氣、咳嗽、身疼、眼病、腹痛其他に用ひられたり、其成分中には砂糖及粘液質等を含む

▲大茴 茴香の大なるものなり(茴香の條下参照)

▲大楓子 楡科に屬する大楓樹の子核にして、諸疥癬、頑癬、諸癩の良藥として用ひられたり、今日の藥局方には大風子油として収録せられ、癩病癰毒並に諸種の皮膚病及腺病に用ひらる

▲大腹皮 棕櫚科に屬する檳榔の一種の子皮にして、水腫脚氣、瘴癘霍亂、痞脹痰膈其他に用ひられたり

▲大梔子 梔子、即ち山梔子の大なるものにして、黄梔子とも云ふ(山枝の條下参照)

▲大汾草 即ち甘草なり(甘草の條下参照)

▲大豆粉 荳科に屬する大豆の粉なり、藥用には主として黒大豆を用ひ、其主治用途の廣き、同條下に略記せる所の如し、黄大豆も亦寬中下氣、大腸を利し、水脹腫毒を消するものとせられたり

▲代赭石 美濃、尾張、遠江、佐渡等に産する塊狀或は纖維狀の鐵石にして、和名アカツチ、又はニイシと稱す、血氣を養ひ、血熱を除き、吐を止め小兒の慢驚を治するものとして用ひられたり、其成分は酸化鐵及粘土なり

▲鱧肝 食肉類中鱧鼠科いたちに屬する川類かはなまの肝にして、古來益陰補虛、止咳、殺蟲の外、傳尸鬼疰を治して神功ありとせられたり

◎丹砂 辰砂、即ち「還」にして、化學上の所謂硫化水銀の天然品なり、夾雜物としては土質を含有するも、八六%の水銀及一四%の硫黄より成る、古來解熱、解毒、鎮痙藥等に用ひられたり

◎膽礬 丹礬或は銅礬、即ち化學上の硫酸銅にして、風熱痰涎、喉痹咳逆、瘰癧崩淋、殺蟲、瘡毒其他に用ひられ、今日にても腐蝕藥、收斂藥としてトラホーム顆粒、角膜潰瘍、潰瘍、水瘡、淋疾、白帶下其他に用ひ、吐劑としては格魯布に於て義膜排出に使用の外、尙種々の中毒殊に燐中毒に之を投ぜり

◎斷腸草 本草名鉤吻、百合科に屬するナメヅリにして大毒あり、金瘡、乳癰、中惡風、欬咳、上氣、

水腫、鬼疰、蟲毒、疰積、脚膝痠痛、四肢拘攣、惡瘡、疥蟲其他に利用せられたり

▲靈仙 即ち威靈仙なり(威靈仙の條下参照)

▲靈天蓋 人の頭蓋骨の數年間埋没腐朽せるものを黒燒として用ふ、主治は骨蒸、勞瘵、久瘡、盜汗等なりと

▲荔枝 無患樹科に屬する荔枝の果實にして、煩渴、頭重、心躁、瘰癧、癩贅、赤腫、疔腫其他に用ひられ、又其核は癩疔氣痛、婦人血氣刺痛、脾痛、腎腫等に用ひられたり

▲蓮肉 睡蓮科に屬する蓮の花托中に在る子實にして、補中益氣、百疾を除き、渴を止め、熱を去り、心を安んじ、痢を止め、腰痛及泄精を治するものとせられたり

▲蓮翹 木犀科に屬するイタチ草の實にして疥癬、瘰癧、癰疽、其他消腫排膿の聖藥として用ひられたるものなり

▲蓮蟲 連翹なり

▲羚羊角 胎草類に屬するカモンカの角にして、驚癇搐搦、筋脈攣急、傷寒伏熱、煩滿氣逆、食噎不通を治し、又避邪解毒等を主るものとして用ひられたり

▲蘇子 唇形科に屬する紫蘇の子實にして、消痰、止咳、肺氣喘息等に用ひらる

▲側理 又側梨、即ち陟釐俗稱アラサなり、綠色藻門に屬する藻にして、穀を消し胃氣を強め、洩痢を

止むる外、天行病心悶を治し、又丹毒赤遊等に用ひられたり

▲粟米 禾本科に屬する粟の中、糠粟にして、胃熱、消渴、利尿、止利、腹痛、鼻衄等の外、尙諸毒を解するものとして用ひられたり

▲續斷 唇形科に屬するラドリコ草の根にして、能く腎肝を補ひ筋骨を理し、子宮を暖め瘀血を破り、腰痛胎漏を治す、又金瘡折跌を主り、痛を止め肌を生ずるを以て、女科外科の上劑とせられたり

▲葱白 百合科に屬する葱の白根即ち根深にして、興奮、祛痰、發汗、利尿、止血、殺蟲藥に用ひられ、又瘡瘍痛風、打撲其他に外用せらる

▲榲木 五加科に屬するタラノキの根にして、利尿及胃腸藥として用ひられたり

▲通草 木通科に屬するアケビの蔓なり、利水藥として九竅血脈關節を通利し、胸中煩熱、遍身拘痛、大渴引飲、淋瀝不通、耳聾、目眩、口燥舌乾、鼻鳴、失音其他を治する外、煩を除き、熱を退け、膿を排し、痛を止め、經を行り、乳を下し、生を催すものとして用ひられたり

▲南星 即ち天南星なり(同條下参照)

▲蜈蚣 腹足類中前鰓類に屬する蜈蚣の介殼にして、古來痰飲及胃脘痛、反胃、膈氣、痰嗽、鼻淵、脱肛、痔疾、瘡癤、下疳、湯火傷等に用ひられたり

▲羅漢松 公孫樹科に屬する犬槇にして、又臭槇と稱す、或は曰ふ羅漢松は即ち仙柏、俗稱羅漢槇、狗

楨に似て小、狗楨は實を結ばざるも、羅漢楨には實ありと、なほ考ふべし

▲葉麻 十字花科に屬する大根にして、又蘿蔔とも云ふ、氣を下し、穀を消し、中を和し、痰癖邪熱を去り、消渴を止め、勞瘦咳嗽、禁口痢を治する外、吐血、衄血、五淋、瘀血、酒毒其他に用ひられたり、其成分は水、澱粉、脂肪の外、多量のヂアスターゼ等なり

▲獺牙 荳科に屬する駒繫ぎにして、毒あり、主治は邪氣熱氣、疥癩、惡瘍、瘡痔、白蟲、赤白痢、痔耳、毒蛇咬螫、其他なりとせられたり

▲藍葉 蓼科に屬する藍の葉にして、百藥の毒及び狼毒、射罔毒、蜂螫、斑蝥、芫青、樗鷄の毒、竝に朱砂、砒石の毒を解するものとして用ひられたり

▲藍汁 前掲藍の生葉汁にして、古來藥毒を解し、又蜂、蜘蛛、斑蝥、砒霜石等の毒を解するものとして用ひられたり

▲藍靛 俗稱藍の花なり、即ち藍玉に石灰、木灰、^{すま}鉄及水を加へて乳酸菌酵を起さしむる時は、還元作用を生じて白藍となり、液面に藍青色の塊を生ず、是れ即ち藍靛なり、同じく諸毒を解し、小兒の禿瘡、熱腫、止血、殺蟲、腸腫等に用ひられたり

▲亂髮 人の落髮を云ふ、皂莢の汁にて洗ひ、乾かして黒焼とせるものを亂髮霜又は髮灰と云ふ、前者の主治は欬嗽、五淋、大小便不通、小兒驚癇、止血等にして、後者の主治は、轉胞、小便不通、赤白痢、

嘔噎、癰腫、疔腫、骨疽、雜瘡其他なりとせられたり

▲無患子 無患子科に屬するムクロジの子實にして、其子皮は面黥、喉痹等に用ひられ、其子仁は惡氣を避け、口臭を去る等に用ひられたり

▲烏 本草名烏鴉、即ち燕雀類に屬するカラスにして、主治は瘦病、欬嗽、骨蒸、勞疾、小兒疳疾、吐血其他に黒焼として用ひたり

▲烏龍 樟科に屬する天台烏藥、及び防己科に屬する衡州烏藥の根にして、衡州産のものより、天台産のものを佳品とす、主治は一切の腫痛、中風、中氣、膀胱冷氣、反胃吐食、霍亂瀉痢等なり

◎烏頭 毛茛科に屬するトリカブトの球根にして、草烏頭、白川附子、勝山附子、川烏頭、大附子の五種あり、疝瘕、腸風、下痢、痛風、諸結癩等を治するに用ひらる、最近の研究に據れば、其主成分はヤブアコニチンなりと云ふ

▲烏芋 勃勝即ち莎草科に屬するクロクワキの根にして、補中益氣、風毒、胸中の實熱、黃疸、解毒、血痢、下血、血崩其他に用ひらる

▲烏麻 即ち菟絲子なり(菟絲子の條下参照)

▲烏賊骨 二總類に屬する烏賊の體壁中に在る骨質にして、之を海螵蛸と云ふ、唾血、下血、血崩、血瘕、下痢、殺蟲、眼疾、陰瘡、嫁痛、湯火傷、重舌、驚口瘡、其他に用ひられたり、其成分は磷酸石灰、

炭酸石灰、膠質等とす(なほ熬魚の條下参照)

▲鳥糞 和名フスベウメ、即ち薔薇科に屬する梅の未熟の實を取り、皮核を去り、藁火の煤煙に薰じて乾かしたるものにして、解熱、殺蟲、久嗽瀉痢、瘰癧霍亂、吐逆反胃、骨蒸勞熱其他に用ひられたり

▲烏蛇 烏梢蛇又は黑花蛇とも云ふ、其身烏くして光り、頭圓く尾尖り、眼に赤光あり、枯死に至るも眼陷らず、性善にして生命を食はず、亦人を害せずと云ふ、癩風、紫白癜風、嬰兒撮口其他に用ひられたり

◎雄黃 粘土或は噴火口の近傍に産出する礦石雄黃うわうにして、即ち毒藥三硫化砒素を云ふ、驚癇痰涎、頭痛眩暈、暑瘧癘痢、泄瀉積聚、勞瘵、瘡疥其他に用ひられ、今日にては腐蝕藥及び脫毛劑として用ひらる

▲茴香 繖形科に屬するウキキヤウの子實にして、大麥粒の如く、輕くして細稜あるものを大茴と名づけ、其小なるものを小茴と名づく、大茴は丹田を緩め、命門の不足を補ひ、胃を開き食を下し、中を調へ嘔吐を止め、小腸の冷氣、癩痢、陰痛、乾濕脚氣を治するに用ひられ、小茴も亦理氣開胃、寒疝等に用ひられたり、今日にては芳香性洗滌液及び洗眼水に外用し、内用としては、健胃、驅風、祛痰、乳汁分泌催進、暖氣痲痛等に用ふ、其成分は揮發油、脂肪、糖分等なり

▲鬱金 薑荷科に屬するウコンの地下莖にして、唾血、吐血、衄血、尿血、婦人の經脈逆行、心腹諸痛其他に用ひられたり、其成分はクルミン(黄色素)、揮發油、澱粉等なりと云ふ

▲雲丹 即ち絡石なり、夾竹桃科に屬するテイカカツラの莖莖にして、風熱、癰疽、金瘡等に用ふる外、延年不老の強壯藥として用ひられたり

▲雲母 斜方柱狀の礦石にして、白、淡黃、綠、褐、黑色等のものあるも、藥用としては白色のものを用ふ、補中堅肌、勞傷、瘧痢、瘡腫、癰疽、催生等に用ひられたり、其成分は珪酸、礬土、加里、曹達、苦土、石灰等なり

▲苦梗 即ち桔梗なり(桔梗の條下参照)

▲苦參 荳科に屬するクラ、の根にして、補陰益精、溫病、血痢、腸風、黃疸、解毒等に用ひられたり、長井博士に據れば、其主成分はマトリンと稱する植物鹽基なりと

▲苦楝子 一に川楝子と云ふ、支那四川の産を上品とするが故に此名あり、楝科に屬するセンダン、和名アフチの子實にして、腹痛、疝氣、五疳、驅蟲等に用ひられ、其根及び木皮も亦魃蟲、疥癬、熱瘡等に用ひられたり

▲薑朮 樹脂の土中に在りて年月を経たるものにして、琥珀に類し、主治は風水毒腫を主り、惡氣伏尸癰癤瘰癧を去る、乳香と功を同するものとせられたり

▲墨 石竹科に屬するカハラナテシコの子實にして、小腸を利し、膀胱の邪熱を逐ひ、治淋の要藥たり、又破血、利尿、消腫、明目、去翳、通經其他を主るものとせられたり

▲藕根 睡蓮科に屬する蓮の根莖にして、滋養強壯劑として用ひられたり、殊に其藕節は、吐衄、咳血及び血痢等に用ひて卓效あり

▲薑香 唇形科に屬するカハミドリノ葉にして、嘔氣を止め、惡氣を去り、霍亂、吐瀉、心腹絞痛、肺虛有寒、上焦壅熱等を治するものとして用ひられたり

▲滑石 礫石とも云ふ、細微に粉碎せる珪酸マグネシウムにして、古來中暑積熱、嘔吐煩渴、黃疸水腫、脚氣淋閉、水瀉熱痢、吐衄血、諸瘡腫毒其他に用ひられ、今日にては撒布藥として皮膚の糜爛に用ひ、又は化粧料として用ひらる

▲活腎血 慈血の條下参照

▲蛭蟪 腹足類中有肺類に屬するナメクジにして、蜈蚣蠱毒、腫毒熾熱、熱瘡脾痛、口顔喎斜、脱肛、驚癇等を治するものとして用ひられ、尙一本堂藥選には、哮喘即ち喘息に屢驗ありと言へり

◎瓜蒂 葫蘆科に屬する瓢瓜の未熟の蒂にして、古來吐劑として用ひられたるものなり、故醫學博士猪子吉人氏は、其有效成分にメロトキシンの名を下したるも、其後醫學博士高橋順太郎氏は、右のメロトキシンは、モ、ルチカ果實中に含有するエラトリント同一物なることを證明せり

▲瓜蒂 栝蘆に同じ

▲花粉 天花粉或は天瓜粉、又は栝蘆なり(栝蘆の條下参照)

▲花椒 ^{くわせう}芸香料に屬する山椒の果實にして、秦椒、川椒、漢椒、巴椒、蜀椒等あり、我國にては但馬の朝倉山椒最も名高し、主として解毒殺蟲劑として用ひられたり、其主成分は揮發油及脂肪等なり

▲礞石 即ち花乳石なり、支那の陝西及山西の代州等に出づる陰石にして、金瘡の神藥なり、硫黃と合煨して末を傳く、倉卒の時は單に其末を傳く、其效血を止むるに專らなりと云ふ、又死胎を下し、胞衣を落し、惡血を去る等に用ひられたり

▲栝蘆 葫蘆科に屬するキカラスウリの根及子仁にして、祛痰、排膿、消腫、通經、熱狂、時疾、胃熱其他に用ひられたり

▲蝸牛 蝸足類に屬するカタツブリにして、利尿、痔疾、脱肛等に用ひられたり、蝸牛霜は蝸牛の黒燒なり

▲魁蛤 同柱類中赤貝科に屬する蚌^{きさ}即ち赤貝にして、一切の血氣冷氣癥癖、血塊、痰積、走馬牙疳其他に用ひられたり

▲槐花 豈科に屬するエンジュの花蕾にして、風熱、赤白泄痢、腸風、五痔、吐衄、崩漏、諸血病其他に用ひられたり

▲槐角 即ち槐角子にして、槐の子實なり、目を明にし、髪をして落ちざらしめ、年を延べ氣力を益すものとせられたり

▲官参 献上品としての最良の人参を云ふ(人参の條下参照)

◎射干 鳶尾科に屬するヒアフギの根にして毒あり、喉痺咽痛の要薬として用ひられ、又結核、瘰癧、便毒、瘡母を消し、經閉を通じ、大腸を利し、肝を鎮め、目を明にするものとして用ひられたり

▲椰子油 棕櫚科に屬する椰樹の果核より製せる脂肪油にして、膏薬材料及塗擦薬として用ひられたり、
βカロニ酸、αブリン酸、ラウリン酸、ミリン酸、パルミチン酸のグリセリン、エステルより組成せらると云ふ

▼▲野蒜 百合科に屬するノビルにして、霍亂服満、積年心痛、疔腫、水毒、陰腫、丹毒、蛇咬、蜈蚣咬、咬螫其他を主るものとせられたり

▲野猪脂 偶蹄類に屬する猪の膽にして、其主治は惡熱毒氣、鬼疰、癩痢、小兒諸疔等とせられたり

▲野薔薇 即ち薔薇なり(薔薇の條下参照)

▲楊梅皮 楊梅科に屬するヤマモ、の樹皮にして、惡瘡、疥癬、牙痛、湯火傷、跌撲損傷等に用ひられたり

◎羊躑躅 躑躅の一種たる黃躑躅の花辦にして、大毒あり、痛風、濕痺、邪氣、鬼疰、蟲毒等に用ひられたり

▲やまぶきの花 即ち薔薇科に屬する棣棠花にして、古來止血薬として用ひられたり

▲麻油 胡麻の油にして、麻即ち大麻の油に非ざるが如し(胡麻油の條下参照)

◎麻黄 麻黄科に屬する麻黄の莖にして、其形木賊に類す、和産無し、専ら喘咳、水氣、惡風、無汗、身疼、骨節痛其他に用ひられたり、其主成分はエフェドリンと稱する植物鹽基なりと云ふ

◎蒜草 木蘭科に屬するシキミにして、葉莖子實何れも之を川ふ、毒あり、主治は風頭癰腫、乳癰、疔瘡、喉痹、瘰癧、白秃、目疾、鼠咬其他なり、子實の成分は揮發油、脂肪油、樹脂、單寧、糖分等なり

▲蔓荊子 馬鞭草科に屬するハマゴウの子實にして、温痺、拘攣、頭痛、腦鳴、目赤、齒痛其他に用ひられたり

▼▲鰻鱺魚 無腹鰭類中鰻科に屬する魚にして、血精を生じ、肌肉を充て、津液を益し、諸蟲を殺し、小兒疳疾、雀目を治するに用ひられたり

▲桂枝 樟科に屬する桂の幹枝及外皮を乾燥せしめたるものにして、其薄きものを桂枝、厚きを肉桂と云ひ、外粗皮と内の薄皮とを去れるものを桂心と稱す、傷風、頭痛、中風、自汗痛風其他に用ひられ、今日にては芳香性健胃劑、殊に慢性下痢、急性腸加答兒の末期、子宮弛緩、軽度の出血等に用ひらる、其成分は揮發桂油(桂皮油)、樹脂、護謨、粘液質、糖質、單寧酸等なり

▲桂心 前條参照

▲荊芥 唇形科に屬する京芥、即ちアリタサウの花穂にして、發汗、傷寒、頭痛、項直、吐衄、腸風、崩

中血痢、産後血暈、瘰癧瘡腫、其他に用ひられたり、其成分は一種の揮發油及樹脂とす

◎**麩粉** 一名賦粉、和名ハラヤ、即ち化學上の甘汞にして劇薬なり、往昔は蟲を殺し、瘡癬を治し、痰涎を劫し、積滯を消するものとして用ひられ、今日にては専ら驅蟲薬、下劑、其他尙内外用として使用せり

▲**鷄卵** 古來滋養強壯劑として用ひられ、又赤白痢には、醋にて煮て之を用ひたり、其成分は種類に依りて多少の相違あるも、白味には一二乃至一四%の蛋白を含み、黄味にはヒテルリーチと稱する卵黄素一五・七%、磷を含まざる蛋白質脂肪及鹽類等を含む

▲**鷄卵油** 卵黄即ち鷄卵の黄味を文火にて炒りて取れる油なり

▲**鷄子白** 鷄卵の白味を云ふ

▲**鷄子清** 鷄子白に同じ

▲**鷄子油** 鷄卵油に同じ

▲**血竭** 血結は麒麟血とも云ふ、棕櫚科に屬する蔓莖植物麒麟血樹の樹脂を乾固せるものにして數種あり、收斂薬及止血薬として、又盜汗に用ひられ、其他齒磨粉、硬膏、着色料等に使用せらる

▲**蜆** 瓣鰓類中同柱類に屬する貝にして、脚氣、濕毒、利尿、消渴、酒毒其他に使用せられ、其爛殼は痢疾、失精、反胃、祛痰、嘔噦、香酸心痛、暴嗽其他に用ひられたり

▲**鱧** 腹足類中前鰓類に屬する螺類にして、其肉は明目、止瀉、利水、醒酒、解熱、黃疸、反胃、痢疾、脱肛、痔漏等に用ひられ、其爛殼は痰飲、胃痛、反胃、膈氣、痰嗽、鼻淵、脱肛、痔疾、瘰癧、瘡癬、下疳、楊梅瘡、湯火傷等に用ひられたり

▲**建茶** 支那の建州北苑に生ずる好茶を云ふ(細茶の條下參照)

▲**犬蓼** 本草名葶草、蓼科に屬するイヌタデにして、渴を消し、熱を去り、目を明にし、氣を益すものとして用ひられ、又瘰癧、腹脹等にも用ひられたり

▲**鯨鬚** 即ち鯨の鬚なるも其能毒を詳にせず

▲**玄參** 玄參科に屬するゴマノハグサの根にして、益精明目、咽喉を利する外、骨蒸傳屍、傷寒、陽毒發斑、瘰癧結核、癰疽鼠瘻等に用ひられたり

▲**玄胡索** 延胡索の條下參照

✓ ◎**牽牛子** 旋花科に屬する朝顔の種子にして、辛烈毒あり、大小便を利し、水を逐ひ、痰を消し、蟲を殺し、水腫、喘滿、疔癬、氣塊を治するものとして用ひられたり、其主成分はヤラツバ根と同じく、コングオルグリンなりと云ふ

✓ ▲**浮麥** 小麥を水に浸し、淘げて浮起するものを焙り用ふるものにして、益氣除熱の外、自汗、盜汗、骨蒸勞熱を止むる爲に用ひられたり

▲浮石 火山より噴出する花崗岩質中の可溶性物たる珪酸及鐵等を消失して、石灰質及雲母質を遺せるカル石なり、止瀉、止嗽、通淋等の外、痰熱を除き、癭瘤結核を除くに用ひられたり、其成分は珪酸、礬土、石灰、苦土、酸化鐵、酸化マンガン、加里、曹達等なり

▲鮓肉 喉嚨類中鯉科に屬する鮓魚、即ち鮓魚の肉にして、主治は虛羸、血痢、下血、腸痔腸癰胃弱、諸瘡其他に内用或は外用せられたり

◎附子 烏頭の球根の周圍に生ずる稚根にして、共に大毒あり(烏頭の條下参照)

▲茯苓 土中の松根に生ずる一種の菌叢發生物にして、白茯苓、赤茯苓の二種あり、又其松根を抱けるを茯神と云ふ、古來水腫、淋疾其他百般の利尿を兼ねる方劑に配伍せられ、人參、白朮、甘草と合せて四君子の稱あり、其成分は未詳なるも、主としてペクレンより成るものならんと云ふ

△茯神 松樹の樹根土中に生ずる茯苓にして、其樹根を抱けるものを云ふ(茯苓の條下参照)

▲伏龍肝 甕中の黄土、即ち甕の燒土（焼つち）にして、止血、消腫、咳逆、反胃、吐衄、崩帶、尿血、遺精、腸風、癰腫等に用ひられ、殊に鎮嘔鎮吐劑としては最も奇效を奏したるものなり、代用品としては土製の煨爐(七輪)、炮烙、燈明皿等の永年使用せるものを細末とせるもの亦可なり、但し愛知縣産のもの最も可なりと云ふ

◎粉錫 即ち白粉、又胡粉、唐の土等異名多し、専ら膏藥の材料として用ひられたり、其成分は鹽基性

炭酸鉛なり

▲文蛤 鱗鱉類中同柱類に屬するハマグリ(濱栗)の貝にして、種々の模様あるものを云ふ、惡瘡、五痔、欬逆、腰痛、出血、崩中、漏下の外、煩渴、利尿其他に用ひられたり、又五倍子を一名文蛤と云ふ

▲琥珀 松柏科植物の樹脂の化石にして、瘀血、癥結、金瘡、五淋、利尿、目疾等に用ひられたり、其主成分は、樹脂、揮發油、琥珀酸、スクチニール及硫黃等なり

▲枯礬 燒明礬即ち白礬を云ふ(白礬の條下参照)

▲虎杖根 蓼科に屬するイタドリ（イタドリ）の宿根にして、月水を通じ、五淋を治し(最も石淋に奇效あり)、渴を止め、熱毒を解するに用ひられたり

▲黑豆 豇科に屬する黒大豆にして、補腎、鎮心、利水、明目、下氣、祛風、散熱、活血、解毒、消腫、止痛等を主るものとせられたり、豆類中其榮養價は第一に位す

▲黑姜 生姜を黒炙せるものなり(生姜の條下参照)

▲昆布 褐色藻に屬するコンブにして、能く癭瘤結氣及十二種の水腫を治するものとして用ひられたり、多量の沃度を含み、尙ブローム、ナトリウム、マグネシウム、カルシウム等を含有す

▲胡桃 胡桃科に屬する朝鮮胡桃の子仁にして、補氣養血の外、虛寒、喘嗽、腰脚疼痛、心腹痛、血痢腸風を治し、腫毒、痘毒、銅毒其他に用ひられたり、水分、蛋白質、脂肪、無窒素有機物、纖維、灰

分等より成るも、其藥效的の成分は未だ明ならず

▲胡瓜 葫蘆科に屬する黃瓜きゅうりにして、熱を清うし、渴を解し水道を利するに用ひられたり

▲胡麻油 胡麻科に屬するゴマの油にして、滋養強壯劑の外、廣く解毒、療瘡等に用ひられ、今日にてオリーブ油に代用の外、軟膏擦劑の材料に供せらる

▲臭菜羹 芸香科に屬するカハハジカミの果實にして、陳久のものを貴ぶ、古來衝動、驅風、收斂、殺蟲劑等に用ひられたり

▲牛蒡 菊科に屬するゴバウの根にして、牙齒痛、勞瘧、諸風、脚氣、咳嗽、肺癰、疝氣、癰疽等に用ひられたり、其成分は植物粘液質、糖分、單寧酸、苦味質及イヌリン等なり

▲牛蒡子 本草名惡質、即ち牛蒡の種子にして、目を明にし諸風を除き小便を利する外、風濕癱瘓咽喉風熱を治し、諸腫瘡瘍の毒を散じ、凝滯腰膝の氣を利す、其一枚を吞めば癰疽の頭を出すは人の能く知る所なり

▲牛黃 山羊或は羚羊乃至牛の膽囊中に在る一種の凝固物にして、俗に之を牛の黃たまと云ふ、以て肝膽の病を治し、清心、解熱、利痰、涼驚、通竅、辟邪の外、中風、驚癇、口噤其他に用ひたり

▲牛膝 苜科に屬するイノコツチの根にして種類多し、腰膝骨痛、足痿筋攣、陰痿失溺、久癱下痢、惡血、癥結、心腹諸痛、淋痛尿血、經閉難產、喉痺齒痛、癰腫惡瘡、金瘡傷折、竹木刺等に用ひられたり

◎五分 胡粉即ち白粉なり

▲五味子 木蘭科に屬する北五味子てうばんごみし、南五味子みなかづら、マツブサ等の果實にして、甘酸苦辛鹹の五味を傷ふるが故に名づけたるが如し、益氣、強陰、補虛、明目、退熱、止嘔、住瀉、寧嗽、定喘等の外煩渴、水腫、酒毒等に用ひられたり

▲五倍子 漆樹科に屬するヌルテの葉柄又は嫩葉に生ずる蟲癭にして、日本没食子即ちキブシを云ふ、痰飲、咳嗽、消渴、盜汗、嘔吐、失血、久痢、黃病、心腹痛、小兒夜啼、喉痹、潰瘡金瘡其他に應用せられたるが、今日にても、止血、收斂、制酵其他の目的を以て、廣く内外用として用ひらる、其主成分は單寧酸なるも、尙樹脂、脂肪、糖分、護膜及越幾斯等を含めり

▲五加皮 五加科に屬するウコギの根皮にして、滋補劑としては五加茶、五加飯、五加酒等に用ひらる、主治は皮膚の瘀血を逐ひ、筋骨の拘攣を療し、虛羸、五緩、陰萎、囊濕、女子陰瘡、小兒脚弱を治する外、目を明にし瘡を愈す等なり

▲五八霜 爬蟲類蛇類の管狀毒牙族に屬する蝮蛇の黒燒にして、癩疹、諸瘻、心腹痛を療し、結氣を下し、蟲毒を除き、大風、諸惡瘡、凍瘡、皮膚頑癬、半身枯死、手足臟腑間の重疾を治するものとせられたり、勝呂氏に據れば、蝮蛇の脂肪はパルミチン及ステアリンの混合物の如く、又酒精浸出液中には、二種の結晶體中一はタウリンなることを檢明せりと

▲紅花 菊花に屬するベニ花はなにして、瘀血、消腫、止痛、經閉、便秘、血暈の外、新血を生ずるものとして用ひられたり、其成分は紅色素カルザミック酸及黄色素、硫酸鹽、蛋白質、越幾斯、木纖維、酸化鐵及礬土、酸化滿俺等なり

▲鉤吻 即ちナベワリなり、(斷腸草の條下参照)

◎恒山 即ち常山なり(常山の條下参照)

✓◎薔薇 薔薇科に屬する野薔薇の實にして、未熟のものを佳とす、瀉道を主り、停水を下し、關節を利し、又其根は濕熱を瀉し、口瘡を治するものとして用ひられたり

✓▲鹽 即ち食鹽にして、古來大小便を通じ、目赤、癰腫、血熱、心瘧、骨痛、齒痛、痰飲、喘逆、結核、積聚等を治し、又能く吐を涌し、酒を醒し、毒を解し、蟲を殺し、痛を定め、癢を止むるものとして用ひられたるが、今日の藥局方にも、クロールナトリウムとして收録せられ、内外用として頗る多方面に使用せらる

◎鉛丹 鉛を酸化せしめたるものにして、丹、黃丹等異名多し(黃丹の條下参照)

◎鉛糖 即ち劇藥醋酸鉛にして、結膜炎、喉頭癆、下痢、痔疾、膀胱加答兒、淋疾、白帶下等に外用或は注入料とし、又内用としては嗜血、胃出血、子宮及痔出血、氣管枝膿漏、肺水腫、盜汗、下痢、赤痢、肺炎、大動脈瘤、心臟肥大等に應用せり

▲硝磺 鹽消、即ち消石或は硝石なり、化學上の所謂硝酸カリウムにして、五臟の積熱、胃腸閉を主るものとせられたるが、今日にては含漱料の外、消炎劑及利尿劑として用ひらる

▲延胡索 一名玄胡索、罌粟科に屬するヤブエンゴサクの塊莖にして、能く血中氣中の滯氣を行し、小便を通じ、風痹を除き、内外の諸痛、崩淋、癥瘕、月經不調、産後血暈其他を治す、活血利氣の第一薬とせられたるものなり、其主成分はプロトピン及ブルボカピンと稱するアルカロイドなりと云ふ

✓▲蛭蝨 蛭蝨螺即ち腹足類に屬する蛭蝨なめくぢにして、蝨けちに非ず、喘僻、軋筋、脱肛、驚癇、蜈蚣毒、腫毒、瘰癧、熱瘡、脾痛等に用ひられたり

◎煙草 茄科に屬するタバコの葉にして、毒あり、風寒濕痹、滯氣停痰、山嵐瘴霧を治する等に用ひられたり、其成分はニコチン(植物鹽基)、ニコチアチン(煙草腦)を主たるものとし、灰分中には加里、石灰、酸化リチウム等を含有せり

▲鐵精 微に光輝ある重き灰色の鐵粉にして、百分中九七・七分以上の純鐵を含む、鎮心、療驚狂、消癰解毒等に用ひられたるが、現時に於ても鎮痙強壯薬として、又黃疸水腫等に用ひらる

▲鐵砂 即ち鐵砂なり、鐵粉の一種にして、製鐵の際、鑪屑となりて生ずる粉末を云ふ、其效鐵粉に同じ

◎天南星 天南星科に屬するテンナンショウ俗稱山萹藪の地下莖にして、濕痰、驚癇、風眩、身強口瘳、

喉痹舌瘡、結核結氣、癰疽疥癬、蛇蟲咬毒等を治する外、諸風、水腫其他に用ひられたり

▲天麻 蘭科に屬する鬼箭薺おにやがらの根にして、益氣強陰、血脈を通じ筋力を強くする外、風熱頭痛、風癩強悸、麻痺不仁其他に用ひられたり

▲天花粉 栝樓根より製出せる白色の澱粉なり(栝樓の條下参照)

▲葶藶 蛄蛄藤に同じ

▲甜葶藶 十字科に屬する薺子なづな或は薺子おほなづなの種子なりと云ふ、主として利水消腫、鎮咳祛痰、通經利便積聚癥結等に用ひられたり

▼▲田螺 腹脚類に屬するタニシにして、大小便を通じ、浮腫を治す、搗爛して臍に貼するも亦佳なり、汁を取りて痔瘡膿臭に捺し、焼研して癩癬癬瘡を治する等に用ひられたり

▲丁香 桃金娘科に屬する丁香樹の花蕾にして、肺を泄し、胃を温め、腎を療し、陽事を壯にし、陰戸を煖め、胃冷、墮脹、嘔噦、奔豚、疝瘕、腹痛、口臭其他を治するものとして用ひられ、今日にても香竄、防腐、衝動及健胃薬として用ひらる、其成分は揮發油、カリオオフィルリン、護謨、樹脂、單寧、蓆酸、撒里矢爾散等なり

▲釣藤鈎 茜草科に屬するカギカツラの鈎棘にして、頭眩、目眩、小兒驚啼癩癩、斑疹其他に用ひられたり

▲鯛 硬鱗類中鯛科に屬する魚にして、補中益氣、陽道を盛にす、婦人乳汁少なき者及通ぜざる者に宜し、又内障、虛人の眼疾、小兒雀眼等にも用ひられたり

▲阿膠 支那産黑驢の皮を煮熬採取せるものにして、櫛櫛くしで、算木さんぎで、覆食きつかふで、絲卷いとまきで、三枚さんまいが、り、懸等の種類あり、清肺、養肝、滋腎、益氣、和血、補陰、除風、化痰、潤燥、定喘の外、大小腸を利し、虚勞、咳嗽、肺痿、吐膿、吐血、衄血、血淋、血痔、腸風、下痢、諸痛、血枯、經水不調、崩帶、癰疽其他に用ひられたり

▲亞鉛華 即ち酸化亞鉛にして、創傷、潰瘍、濕疹等に外用せられ、又舞踏病、癩癩、子癩、瘰癧、胃瘕、小兒の下痢等に内用せらるゝこと、人の能く知る所なり

▲安萬登古呂 本草名萎蕤、百合科に屬するアマトコロの地下莖にして、滋補劑の外、煩渴、風濕、寒熱、目痛、背爛、頭痛、腰痛等に用ひられたり

▲罌粟霜 ウゴロモチ即ちモグラモチの黒燒にして、咽喉腫痛、瘡疥、痔漏、蛇蟲其他に用ひられたり

▲鴨跖草 鴨跖草科に屬するツユクサにして、又青花あなはなちんぎよ、血草とも云ふ、寒熱瘧瘧、痰飲、丁腫、肉癰、發熱狂癩、小兒丹毒、大腹痞滿、身面氣腫、熱痢、蛇犬毒、癰疽等を治し、喉痹を消するものとして用ひられたり

▼ ▲櫻木皮 薔薇科に屬する櫻の樹皮にして、解毒、祛痰等に用ひられたり

いろは別本草略解

▲櫻皮 櫻樹皮なり

▲砂糖 砂糖は本来沙糖なり、本邦に於て用ふる砂糖は、専ら蔗糖なるが、古來補脾、緩肝、潤肺、消痰、鎮咳其他に用ひられ、今日にても榮養品及嗜好品又は緩和劑祛痰劑として用ひらるゝこと言ふ迄も無し、蔗糖の純品には糖分九八%以上を含み、尙若干の灰分を含有す、日本藥局方中には單舍利別(白糖六五、蒸餾水三五)、及油糖劑として收録せり

▲砂仁 薑荷科に屬する縮砂の子實にして、香竅衝動及驅風藥として、消化不良及鼓腸等に用ひられたり(縮砂の條下參照)

▲醋 即ち酢なり、澱粉類或は酒類に醋母を與へ醗酵酸化せしめたるものにして、散瘀、解毒、下氣、消食、産後血暈、癥結、痰癆、疸黃、癰腫、解毒其他に用ひられたり、其主成分は醋酸なるも、尙少量の醋酸エーテル、糖分、ゴム、色素、灰分等を含む

▲細茶 挽茶を云ふ、茶は山茶科に屬する茶の葉を摘採乾燥せるものにして、氣を下し食を消し、痰熱を去り、煩渴を除き、頭目を清うす、昏睡を醒し、酒食油膩燒灸の毒を解し、大小便を利するものとして用ひらる、今日の藥局方には茶劑(根、根皮、木片、葉、花、果實、種子等の混合物)として收載せられ、神經興奮藥及利尿劑として、又外用としては蒸溜法巴布等に供せらる、茶葉中にはカフェイン、揮發油、單寧等を含有せり

▲細理石 即ち石膏なり(石膏の條下參照)

▲藥胡 薔薇科に屬するカハラサイコ、繖形科に屬するミシマサイコ、マルバサイコ(一名鎌倉柴胡)等あり、品種多しと雖も、本邦にては鎌倉柴胡を賞揚し、主として寒熱往來、腹痛、胸下痞鞭等に用ひたり

▲風角 哺乳動物中、奇蹄類に屬する犀の鼻上の角質にして、強壯、解毒及解熱等に用ひたるも、妊婦には之を忌むと云ふ

▲桑寄生 老桑樹の枝間に生ずる寄生木にして、婦人の崩漏、通乳、安胎、腰痛等の外、尙瘡瘍、風濕等に用ひられたり

▲桑皮 桑白皮なり

V ▲桑白 即ち桑白皮なり、桑科に屬する山桑の根皮の外皮を去り、其内皮を乾燥せるものにして、利水及鎮咳祛痰、唾血、熱湯其他に用ひられたり

◎蚕休 金線重露、即ち草甘遂なり(甘遂の條下參照)

▲貝莢 荳科に屬する自莢即ちサイカチにして、夾、刺、種子の三種何れも用ひらる、莢は衝動、殺蟲、嘔吐藥として、之を中風、偏頭痛、麻痺、纏喉風、喉癆、祛痰等に用ひ、刺は以上の外之を諸瘡に用ひ、種子は瘡毒及諸瘡等に、末は縊死卒死等の吹入藥にも用ひらる

▲皂角末 即ちサイカチの末まつなり(皂莢の條下参照)

▲葶藶 一に草果に作る、草豆蔻、白豆蔻の類と同一物なりとし、或は異種なりとの説あれども、其主治は略く同一なるが如く、主として健胃解毒劑等に用ひられたり

▲重龍膽 龍膽に同じ(龍膽の條下参照)

▲蒼朮 菊科に屬するオケラの根にして、其嫩根を白朮とし、宿根を蒼朮とすと云ふ、利水及解熱藥として用ひられたり

▲蒼耳子 菊科に屬するラナモミの子實にして、發汗、解毒、中風、止血、其他鎮痙藥として用ひられたり

▼▲杉 松杉科に屬する杉にして、漆瘡、脚氣、心腹脹痛、風毒奔豚霍亂上氣等を治するものとして用ひられ、其葉は風蟲牙痛の含漱(煎酒)劑として用ひられたり、其樹皮中には多量の樹脂及揮發油を含む

▲杉節 即ち杉の節にして、腫瘡、脚氣等に應用せられたり

▼▲山藥 薯蕷科に屬する山の芋、即ち自然生じねんじやうの根にして、益腎、強陰、虛損、勞傷、痰涎、瀉痢、遺精、健忘等の外、癰瘡腫硬等に外用せられたり

▲山枝 即ち山梔子なり、又單に枝子とも云ふ

▼▲山梔子 茜草科に屬するクチナシの果實にして、黃疸、吐血、衄血、煩燥、虛熱、其他の血症に用ひ

られたり、其成分はルビクロール酸なりと云ふ

▲山萸萸 山茱萸科に屬するサンシユユ、即ちヤマグミの子實にして、強陰、助陽、腰膝を煖め、小便を縮め、風寒濕痹、鼻塞目黃、耳鳴耳聾等を治するものとして用ひられたり

▲山豆根 豈科に屬するミヤマトベラの根にして、金鎖匙、解毒等の異名あり、肺大腸の風熱を去り、消腫止痛の外、喉癰、喉風、齧腫齒痛、喘滿、熱咳、腹痛、下痢、五痔、諸瘡を治し、諸藥毒を解し、禿瘡、蛇咬、蜘蛛傷等に傅け、又人馬の急黄を療するものとせられたり

▼▲山百合 百合科に屬するサ、ユリの球莖にして、潤肺、寧心、清熱、止咳、補中益氣等の外、二便を利し、浮腫臃脹、心下滿痛、乳癰瘡腫其他に用ひられたり

▼▲夏竇 鱗翅類中に屬する蠶の糞にして、多くは夏竇の糞を水洗日乾して用ふ、風眼、淋疾等に用ひられたり

▲蒜 大蒜なり(大蒜の條下参照)

▲蒜根 右に同じ

▲酸薏仁 鼠李科に屬するサチブトナツメの子仁にして、健胃、鎮靜、滋養劑等に用ひられ、特に不眠症には著效ありとせられたり

▲三七 菊科植物に屬する三七草なり(廣東人參の條下参照)

▲三稜 莎草科に屬するウキヤガラの根にして、鷄爪三菱、黑三菱、石三菱等あり、一切の瘀血、氣結、食停、痞硬、老塊堅積を散じ、消腫、止痛、通經、墮胎等其效香附子に近しと云ふ

▲三年味噌 大豆を煮て麴と鹽とを和し、搗藏してならしたる味噌三年以上を経たるを云ふ、能く脾胃を和し、熱を涼し、鳥獸魚蝦菜菌の毒を殺ぎ、腸胃を潤し、二便を利す、産後の血脫血暈等にも用ひたり

✓ ▲鬼燈 本草名酸漿、即ち茄科に屬するホ、ソキにして、葉莖根子實何れも之を用ふ、主治は利尿、催生、咳嗽、黃病、骨蒸、勞熱、嘔逆、痰壅、疔癬、痞滿其他なり

◎鬼臼 小蘗科に屬する草にして九白、獨脚蓮、山荷葉、馬目毒公、害母草等其他尙異名多し、和名、奴波乃美、其根射干の如く、白くして味甘し、邪を逐ひ、百毒を解し、咳嗽、喉結、風邪、煩惑、失魄、妄見を療し、目中の膚翳を去り、勞疾、傳尸瘵疾等を去るものとせられたり

▲枳殼 和俗カラタチを以て枳殼に當つるものあるも、カラタチは唐橘にして枳殼に非ず、其木は橘の如くにして高さ五七尺、葉は橙の如くにして刺多く、春白花を開き、秋に至つて實を爲す、皮厚くして小なるものを枳實と爲し、完大なるものを枳殼と爲すと云ふ、二者共に祛痰、利尿、發汗、消化劑等に用ひられたり

▲枳實 枳殼の條下参照

✓ ▲桔梗 桔梗科に屬する桔梗の根にして、咽喉腫痛、胸脇痛、胸膈滯氣、赤目腫痛、口舌生瘡、喉癰を療し、膿を排するものとして用ひらる、セチガ根と同様の效を有し、中にサポニンを含有すと云ふ

▲萹子 即ち萹葵子、毛茛科に屬する節分草の子實にして、虎蛇毒、諸瘡毒を解するものとして用ひられたり

▲寄生 即ち桑寄生なり(桑寄生の條下参照)

▲奇瓦 土茯苓なり(同條下参照)

▲希蘇 即ち稀莪、菊科に屬するメナモミの嫩葉にして、肝腎風氣、四肢麻痺、筋骨冷痛、腰膝無力、風濕瘡瘍等を治するに用ひられたり

✓ ▲菊花 菊科に屬する甘菊あまぎくの花辦を用ふ、古來頭目風熱眩暈を治し、濕痺遊風を散するものとして用ひられたり

▲芍藥 川芍なり(同條参照)

✓ ▲蚯蚓 環節蟲類に屬するミ、ズにして、又地龍土龍其他異名多し、白頸のものを用ふ、主治は傷寒瘧疾大熱狂煩及小便不通、急慢驚風、歷節風痛、腎臟風注、頭風、齒痛、風熱赤眼、木舌喉痺、鼻瘻、聾耳、禿瘡、癩癰、卵腫、脫肛其他なり

◎杏仁 薔薇科に屬する杏の核仁にして、古來咳嗽、咳逆、解毒藥等に用ひられ、今日にても杏仁及杏

仁水として廣く應用せらるゝこと、人の能く知る所なり、其成分は苦扁桃仁の如く、アミグリン及エム
ルシンと稱する卵白性醱酵素、脂肪油、護謨、糖質等とす、劇藥なり

▲姜汁 生姜の絞汁なり(生姜の條下参照)

▲膠 冬青科に屬する構木の樹皮より製出せる構にして、烏を捕ふるに用ふるものなり

▲膠飴 地黄煎即ち朝鮮飴なり、米麥其他の澱粉質を蒸し、之に麥糖子を加へて糖化せしめたるもの
として、水飴、膠飴(水飴を更に煎熬せるもの)、淡切飴(膠飴を一層硬くせるもの)、飴(膠胎を牽練せる白玉
飴)等あり、虚冷を補ひ、氣力を益し、腸鳴咽痛を止め、吐血を治し、胃氣を和する外、烏頭の中毒等
に之を用ひたり、其成分は麥芽糖、糊精、蛋白、脂肪、鹽分等なり

▲強靈 殭蠶即ち白殭蠶ならん、殭を強(強)と誤るものなるべし

▲羌活 獨活及羌活の區別に就きては、諸説ありて一定せざりしが如しと雖も、小野蘭山の本草綱目啓
蒙に於て、繖形科に屬するシ、ウドを獨活とし、ウドモドキ一名ヤマウドを以て羌活なりとせるより、以
後世人此説に従ふと云ふ、専ら頭痛、中風、痛風等に用ひられたり

▲鏡面草 本草名螺蛸草、和名カミ草、其蔓石上に生じ葉は螺蛸に似たり、微に赤色を帯びて光るこ
と鏡の如く、背に少毛あり、搗爛して腫腫、風疹、脚氣腫に外用し、又諸出血及び齧齒等に用ひられたり、
鹿蹄草に又鏡草の名あり、同じく止血收斂藥に用ひらる、大和本草には螺蛸草と訓ぜるも、マメヅル草は

本草名驚抱にして其主治異なるが如し

▲薯蕷粉 薯科に屬するソバの粉にして熱腫風痛を消し、白濁、白帶、脾積、洩瀉を除き、沙糖を以て
炒麩二錢を服すれば痢疾を治し、炒焦熱水衝服すれば絞腸沙痛を治するものとせられたり

▲魚生 即ち魚脰なり、諸魚の鮮活なるものを薄く切りて、血鮭を洗浄し、沃ぐに蒜薑薑醋の五味を以
てせるものにして、大小腸及膀胱を利し、陽道を起し、脚氣風氣の人に宜しく、上氣喘咳を治するもの
として用ひられたるが、所謂鯽鱒は久痢、腸澼、痔疾、丹毒、風眩を主るとせられたり

▲金箔 黄金の箔なり、種類多きも純粹の箔を焼金と稱す、金粉と同じく黴毒、腺毒、子宮出血、驚癇、
風熱の外、解毒藥として用ひられたり

▲金粉 金屑即ち黄金の屑にして驚癇風熱、肝膽の病、黴毒、腺病、子宮出血其他に用ひられたるもの
なり

▲金銀花 忍冬科に屬する忍冬の花にして、忍冬同様瘡毒及び腫瘍を治するに用ひられたり(忍冬の條
下参照)

▲金鎖匙 山豆根、即ち豇科に屬するミヤマトベラの根にして消腫、止痛の外、喉癰、喉風、眼腫齒痛、
喘滿、熱咳、腹痛、下痢、五痔、諸瘡を治し、又諸藥毒及び蟲蛇咬傷毒を解するものとして用ひられた
り

▲金魚 鯉魚科に屬する鮒の變種にして、久痢、火瘡等に用ひられたり
 ▲金鯉魚 喉鯉類中鯉科に屬する鮮鯉にして、咳逆、上氣、黃疸、水腫、暴痢、反胃、一切の腫毒、骨疽其他に用ひられたり

▲熊膽 食肉類中熊族に屬する熊の膽囊を乾燥せるものにして、岡膽(深山に住する熊の膽囊にして上品なり)、烏膽(北海道の海邊に産するものにして下品とす)の二種あり、又其採取時季に依りて夏膽(上品)、冬膽(下品)の別あり、癩癩、疔瘡、疥癬、心胸痛、諸腹痛、諸癩、癲狂、瘧疾、痢疾を療し、嘔吐を止め、痘瘡を發し、疔疾、催生、目に點して翳を去り、痔に塗つて痛を止むる等、一切の卒患急病に對し、救急最要の良藥とせられたるものなり、但し質品頗る多し、鑑定法としては白蓋中に水を汲み、胡麻子大のものを投ずるに、飛旋迅速にして消失するものを上品とす

✓▲雄兔糞 啮齒類中兔科に屬する雄兔の糞にして、明月砂と稱す臘月之を收む、五疳下痢、大小便秘、痔瘡下蟲等の外、解毒殺蟲に用ひられたり

▲湯の花 硫黄泉の分流中に鹵を敷きて、硫黄の沈着を待ち、上流を遮閉して水の涸るゝを待ち、之を取りて日乾せるものなり、上州草津に産するものを上品とす、主治は略、硫黄に同じ(硫黄の條下參照)

◎明雄黃 雄黃の精明なるもの、即ち三硫化砒素なり(雄黃の條下參照)

▲麩粉 小麥粉なり(麥粉の條下參照)

▲綿實 錦葵科に屬する木綿の子仁にして惡瘡、疥癬等に用ひられたり

◎密陀僧 化學上の酸化鉛にして劇藥なり、古來痰を墜し、驚を鎮め、血を止め、腫を散じ、積を消し、蟲を殺し、腫毒を療し、凍瘡を愈し、狐臭を解するものとして用ひられたるも、今日にては唯製藥上鉛製劑、硬膏の調製に用ひらるゝのみ

✓▲豉 俗に云ふ納豆なり、淡鼓鹹鼓の二種あり、何れも黒大豆を以て造れるものにして、藥用には多く淡鼓を用ふ、主治は傷寒、頭痛、寒熱、瘴氣、惡毒、煩躁、滿悶、虛勞、盜汗、血痢、腹痛其他なり

✓▲柿 柿樹科に屬する柿の果實にして、耳鼻の氣を通じ、腸胃の不足を治し、酒毒を解し、胃間熱を壓し、口乾を止むるものとせられたり

✓▲柿蒂 柿樹科に屬する柿の果蒂にして、嘔逆の特效藥として用ひられ、又遺尿藥として利用せられたり

✓▲柿實汁 柿樹科に屬する柿の實の汁、即ち柿澁にして、古來湯火傷其他に用ひられたるものなり

▲紫檀 檀香科に屬する本植物の一種にして、之を惡毒風毒及一切の卒腫に摩塗し、又金瘡に傳けて血を止め痛を止むる外、淋を療するものとせられたり

▲紫苑 菊科に屬するシラン即ちシヲニの根にして、補虛調中、消痰止渴の外、寒熱、結氣、咳逆、上氣、喘嗽、膿血、小兒驚癇等を治し、殊に血痰を治し血勞の聖藥として用ひられたるものなり

▲紫根 紫草科に屬するムラサキ草の根にして、江戸紫の染料に用ひられたるものなり、古方には之を用ふるに稀なるも、後世家は之を涼血活血大小腸より利するに用ひたり、故久原理博は其成分として紫草紅を發見し、又黒田女史はシヨニンと稱する色素を檢出せるが、此はアセチル化合物なりと云ふ

▲紫蘇 唇形科に屬するシソの葉及子實にして、表裏共紫色なるを用ふ、主治及效能は利肺、開胃、益脾、發汗、解肌、和血、下氣、寬中、消痰、祛風、定喘、止痛、安胎、等の外、大小腸を利し、魚蟹の毒を解するものとせられたり

▲梔子仁 茜草科に屬するクチナシの果實なり(山梔子の條下参照)

▲蘇瓜 葫蘆科に屬するヘチマの瓠果にして、涼血、解毒、除風、化痰、鎮咳、經絡を通じ血脈を行じ、浮腫を消する外、腸風、崩漏、疝疝、癰疽等に用ひられ、殊に痘瘡には必用の要薬とせられたり

▲史君子 四君子、又は使君子とも書す、使君子科に屬する使君子からくちなしの實にして、脾胃を健にし、虚熱を除き、藏蟲を殺し、五疳、便濁、瀉痢、瘡癬を治する等、小兒諸病の要薬たり

▲酒芍 一宿酒浸せる芍薬を云ふ

▲棕櫚葉 棕櫚科に屬するシユロの葉にして、吐衄、崩帶、腸風、下痢、失血過多等を治するに用ひられたり

▲椴葉 紫葳科に屬するヒサギの葉にして、拔毒排膿の力強きが故に、古來外科の要薬として、一切

の毒腫、瘰癧癰瘡等に用ひられたり、本邦にては大戟科に屬する赤目柏あかめかしは(梓)を代用せるものあるが如きも、其效力に大差あるが如し

▲生地黃 地黃の蒸乾又は曝乾せざる生根をいふ(地黃の條下参照)

▲生地榆 地榆の生根なり(地榆の條下参照)

▲生蒲黃 蒲黃の焙炒燒等を行はざるものを云ふ(蒲黃の條下参照)

▲生蒲 蕺荷科に屬するシヤウガの地下莖即ちハシカミにして、其蒸乾せるものを乾姜と云ひ、單に乾燥せしめたるものを乾生姜と云ひ、黒炙せるものを黑姜と云ふ、健胃鎮吐、驅風消化薬として用ひられたり、今日の藥局方に於ても、其乾燥せるもの、外、尙丁幾及舍利別として、健胃芳香調味薬として用ひらる、其主成分は揮發油、軟性樹脂、エキス質、澱粉、パゾリン等なり

▲生薑 生姜なり

▲生漆 漆樹科に屬するウルシの液汁にして、血を行し、蟲を殺し、積滯を除き、瘀血を破り、傳尸癆瘵、癩疔蝨蟲等を治するに用ひられたり

▲生附 附子の曝乾せざるものを云ふ

▲生牛蒡葉 菊科に屬する生牛蒡の葉にして、食鹽、米糊と共に膏とし、瘰癧、關節疼痛、風頭痛、梅毒頭痛等に外用せられたり

▽△松香 松膏即ち松脂を云ふ、風を祛り濕を去り、毒を化し蟲を殺し、肌を生じ痛を止むるものとして用ひられ、今日にては痲瘋質斯、神経痛、其他の皮膚病、淋疾等に用ひらる、其成分は樹脂酸たるアビエチン酸、ピマール酸、シルウキソンの如き同質異性體及他の無水物並に酸化物等なり

▲松脂 松杉科に屬する松屬の樹幹より滲出せるテレピンチーナの乾燥せる樹脂なり、松香に同じ

▲松樹皮 即ち松木皮なり、癰疽、下血、金瘡、杖瘡、頭痛、湯火瘡等に用ひられたり

▲松笠 即ち松實なり、骨節風、頭眩、水氣、虛羸、咳嗽其他を主るものとせられたり

▲醬水 粟米を炊きて冷水中に投じ浸すこと五六日にて製する漿酢、即ち早酢はやずを云ふ、胃を開き渴を止め中を調へ力を強くする外、霍亂吐下、嘔噦、利尿等に用ひられたり

▲升麻 虎耳草科に屬するアハモリ升麻屬の地下莖にして品種多し、時氣、疫癘、頭痛、寒熱、肺痿、吐膿、下痢後重、久泄、脱肛、崩中、帶下、陰痿、口瘡等の外、藥毒痘毒等を解するものとせられたり

◎商陸 商陸科に屬するヤマゴボウの根にして毒あり、大戟甘遂と功を同うし、水腫、脹滿、癰疽、癰腫、喉痹其他を治するに用ひられたり、長井博士に據れば其有毒成分は、フキトラコトキシンと稱するものなりと云ふ

▲鱉魚 鱉魚科に屬する烏賊の肉を乾燥細割せるものにして、津を生じ、渴を止め、滯血を散じ、血枯を潤すものとして用ひられ、其體壁中に在る骨質は、磷酸石灰、炭酸石灰、及膠質等より成り止

欠

欠

▲**柿** 禾本科に屬する黏粟にして、赤痢、久泄胃弱、筋骨攣急、肺癆寒熱、瘡疥毒熱、犬咬凍瘡等に用ひられたり

▲**蕪艾** モグサなり、(艾葉の條下参照)

▲**度礬** 即ち朴消なり、化學上の所謂硫酸曹達にして、馬牙消(稜柱狀に結晶するもの)、芒消(芒鍼狀に結晶するもの)、朴消(塊狀を爲せるもの)の三種あり、氣中に放置する時は、風化して白色の粉末となる、之を風化消と云ふ、傷寒、疫痢、積聚、結癖、留血、停痰、黃疸、淋閉、瘡腫、目赤、障翳、通經其他に用ひられ、今日にても、瀉下及利尿劑として用ひらる

◎**蓖麻子** 蓖麻子、即ち大戟科に屬するタウゴマの種子にして、偏風不遂、口噤失音、鼻窒耳聾、喉痹舌脹、水瘰浮腫、逐膿拔毒等に應用せられ、今日にても瀉下劑又は灌腸用として外用せらる、其主成分はリチノール酸、即ち蓖麻子油、又所謂リチ子油にして、更にリチンと稱する蛋白質を含めり

▲**枇杷葉** 薔薇科に屬する枇杷の葉にして熱咳、嘔噦、口渴、暑毒、脚氣の外、下氣消痰に用ひられたるが、消暑の散藥枇杷葉湯は有名なるものなり、赤井氏に據れば枇杷葉仁より得たる餗液は、總青酸〇・一%以上を含み、其性質に於て、杏仁水と大差を認めずと云ふ

▽**枇杷核** 枇杷の核仁にして同じく鎮咳祛痰等に效あり、杏仁の如くアミグダリン等の成分を有すと云ふ

✓ ▲**服部** ひやうたん 本草名蜜盧又は胡蘆、葫蘆科に屬する瓢箪にして、主治は消渴、惡瘡、鼻口中肉爛痛、利尿、除熱、治淋其他なり

✓ ▲**百重霜** 釜の下の煤、即ち鍋墨を云ふ、咽喉口舌一切の諸瘡、膈噎、胃腸病、黃疸、婦人の崩中、帶下、上下の諸血、産前産後の諸病の外、傷寒其他に用ひられたり

✓ ▲**白檀** 檀香科に屬する本植物の木部に於て、脾肺を調へ、胸膈を利し、邪惡を去り、飲食を進め、氣を理するの要藥として用ひられたるが、今日の藥局方には白檀及白檀油として収録せられ、香竄、衝動藥として用ひらる、其主成分は揮發油及樹脂とす

✓ ▲**白茯苓** 赤松の樹根土中に生ずる一種の菌叢發生物なり(茯苓の條下参照)

✓ ▲**白芨** 又白及とも書す、蘭科に屬するシランの根にして、鼻衄、咯血、癰腫惡瘡、敗疽、湯火傷、打撲骨折、皸裂其他に用ひられたり

✓ ▲**白芷** 繖形科に屬するヨロヒグサの根にして、諸種の頭痛、牙痛、鼻淵、白崩、帶下、腸風、痔漏、癰腫等の外、砒毒蛇毒を解するものとして用ひられたるが、故下山博士に據れば、白芷はシ、ウド屬の植物にして、洋産アンゲリカ根に類するを以て、其成分も恐らくは同一なるべしと云ふ

✓ ▲**白芍** 芍藥の根の粗皮を去りて蒸乾せるものにして、利尿、止痛、安胎、補骨、瀉痢、腹痛、心痞胸痛、肺脹喘逆、鼻衄其他に用ひられたり(芍藥の條下参照)

✓ ▲**白朮** 諸説ありと雖も、菊科に屬するオケラ(蒼朮)の嫩根なりと云ふ、效能略々蒼朮に同じ、利水及解熱藥として用ひられたり(蒼朮の條下参照)

✓ ▲**白蟻** 即ち白 蟻 びやくきやうさん 蟻なり、昆蟲類中鱗翅類に屬する蟻の幼蟲(蟻兒)が、一種の細菌に因り殖れたる死體にして、俗に之をオシヤリと云ふ、中風、失音、頭風、齒痛、喉癢、咽腫、丹毒、瘰癧、瘰癧、結核、瘧血病、崩中、帶下、小兒驚癇其他に用ひられたり

✓ ▲**檳榔** 棕櫚科に屬する檳榔の子實にして、消食、祛痰、腫脹、殺蟲、瘧痢其他に用ひられたり、子實中にはアレコリン及アレカインと稱する植物性鹽基あり、其集成は水、窒素、カフェイン、エーテル性越幾斯、澱粉、鞣酸、木纖維、其他無窒素物及無機物等なりと云ふ

✓ ▲**木香** カシミアに野生の草根にして、和産無し、古方書中青木香とあるには舶載品を用ふ、和方書中に青木香とあるは馬兜鈴根なりと云ふ、一切の氣痛、心痛、嘔逆、胃及霍亂、瀉痢、後重、癰閉、痰壅、氣結、疔癬、癰塊、腫毒、蟲毒、腋臭、消食、安胎其他に用ひられたり

✓ ▲**木鱧子** 葫蘆科に屬する本植物の種子にして、扁平不正圓形或は龜甲形を爲せり、和産無し、折傷、瀉痢、瘡痔、瘰癧、乳癰、腫脹其他に用ひられたり、其成分は乾性脂肪の外、二種のサポニン體、並に一種の複糖體なりと云ふ

✓ ▲**木賊** 木賊科に屬するトクサの莖にして、發汗利尿の外、眼病、疝痛、脫肛、腸風、痔漏、赤痢、崩

中及諸血病等に用ひられたり、其主成分は珪酸及木賊酸なりと云ふ

▲**液糖** 橄欖科に屬するミルラ屬の樹を鑽刻して採取せるゴム樹脂にして、消腫、止痛、血虛、金瘡、杖瘡、惡瘡、痔漏其他に用ひられたり、今日の薬局方にはミルラ及ミルラ丁幾として收録せられ、分泌制限及、刺戟劑として外用の外、内用としては祛痰劑、通經劑、消化不良等に用ひらる、其主成分は樹脂、ゴム、揮發油等なり

▲**液蜜子** 漆樹科に屬する鹽膚木の葉柄或は嫩葉に生じたる蟲癭にして、之を五倍子、俗にはキブシと云ふ、止血收斂制酵其他に用ひられ、今日の薬局方にも亦收録せらる、其成分は單寧酸、樹脂、糖分、護膜及越幾斯質にして、主治は單寧酸に同じ

▲**薑汁** 即ち菊科に屬する白蒿の生汁を云ふ、白蒿は藜即ちシロヨモギ、又アウレギクなりと云ひ、又茵陳蒿即ちカハラヨモギなりとも云ふ、何れも補中益氣、風毒、心痛、熱黃等に汁を搗いて服し、又之を貼する外、止血、止疼、瘡痰、久痢等に用ひられたり

▲**青竹茹** 竹筍の炮炙等せざるものを云ふ(竹茹の條下参照)

▲**青黛末** 藍汁より取れる藍の花を乾燥せる粉末にして、薬用の外着色料に供せらる、傷癩發癩、吐衄痢血、小兒驚癇、疔熱丹熱等を治し、又癩瘡蛇犬毒等の傳染とせられたり

▲**青木葉** 山藥菜科に屬する常緑木即ち槐の葉にして、瘧疾(凍瘡の類)を治し、瘧疾を減するの特效

薬たり

▲**膏皮** 橘皮又重皮とも云ふ、芸香料に屬する蜜柑の未熟なる果皮を乾燥せるものにして、古來滯氣を散じ、痰を消し、隔を快くする等の爲に用ひられたり、其陳久のものを陳皮と云ふ(陳皮の條下参照)

▲**糖耐** 黍、玉蜀黍、馬鈴薯を原料とし、又は酒精或は腐敗酒等を蒸溜して製する酒精分最も強き酒にして、大毒あり、主治は冷積寒氣、濕痰、鬱結、水泄、霍亂、瘧疾、噎隔、心腹治痛、殺蟲、辟瘴、利尿等なり

▲**椒目** 芸香料に屬する山椒の果核なり、人の瞳に似たるを以て此名あり(花椒の條下参照)

▲**石膏** 單斜系に屬する鑽石にして石膏、或は白虎、和名シライシなり、雪花石膏、纖維石膏、鏡石膏等の數種あり、傷風寒時疫の大熱、口乾大渴引飲、夏時の熱病、熱瘧、潮熱、狂證、胃熱、口瘡、乳癰、牙疼、咽痛、上氣目痛耳鳴等を療するものとして用ひられたり、其成分は硫酸カルシウムにして、夾雜物には珪酸、礬土、酸化鐵等を含有す

▲**石灰** 石灰石を爐中に焼きて製せる假製石灰にして、鎮痛、止血、殺蟲、瀉痢、脱肛、積聚、結核等に用ひられたるが、現時に於ても腐蝕及消毒薬に用ひらる、其主成分は酸化カルシウムなり

▲**石炭油** 石炭油、即ち石油にして、小兒驚風、疥癬蟲癩、痰涎、殺蟲等の外、丸薬の材料に使用せられたり

▲石菖 天南星科に屬する石菖蒲、即ちイハアヤマの地下莖にして、逐風、去濕、除痰、寬中、開胃等の外、禁口痢、驚癇、風痺、崩帶、胎漏を療し、尙消腫、止痛、解毒、殺蟲等に用ひられたり

▲石蓮肉 蓮の花托中に在る成熟せる子實なり(蓮肉の條下参照)

✓ ▲柘榴皮 安柘榴科に屬するザクロの果皮にして、泄痢、下血、崩帶、脱肛等に用ひられたるが、其主成分は鞣酸二八%、護謨二四%、越幾斯二%なりと云ふ、現時の薬局方にては、石榴の幹枝及根皮を採用して、之を條蟲の驅除薬に使用せるが、該根皮及幹枝中には、ペレチエリンにフニチンと稱する無色或は微黄色の植物性鹽基を含有すと云ふ、但し高折醫學博士は種々の理由に於て、果皮の煎劑を以て優れりとせり

▲赤辛螺 前鰓類中ホ子貝科に屬する赤螺あかにしにして、腫を消し、痛を止め、齒を固くし、目を明にするものとせられたり

▲川烏 即ち川烏頭なり(烏頭の條下参照)

✓ ▲川芎 本名は芎藭、繖形科に屬するセンキウの塊根にして香果、杜芎等其他異名多し、調經止痛、血虛頭痛、腹痛脇風、氣鬱血鬱、濕瀉血痢、寒痺筋攣、癰疽瘡癰其他に用ひられたり、其成分は揮發油及蔗糖等なりと云ふ

▲川棟子 苦棟子の條下参照

✓ ▲蟬退 蟬脱なり、即ち昆蟲類中有吻類に屬する蟬の脱皮ぬけがらにして、小兒驚癇及夜啼、風熱、瘡瘍、目翳、中風、失音等に用ひられたり

✓ ▲蟾酥 兩棲類中無尾類に屬する蟾蜍せんよ、即ち蟾ひきがへる、蛙の表皮腺より分泌する乳白色の毒液を取り、麵粉と共に練りて製せる一種の餅塊にして、發背疔腫及小兒の疳疾、腦疳等に用ひられたり、石津博士及上遠野氏に據れば、此皮腺分泌液の藥物的作用は、チギタリス簇藥物に類似し、心臟作用を強盛ならしむるの效ありと云ふ

▲旋覆花 菊科に屬する小車たぐるまの花にして、健胃、祛痰等に用ひられたり

▲穿山甲 哺乳類中貧齒類に屬する鱧せんざんかう、鯉の鱗甲にして、風濕冷痹を治し、又通經、下乳、消腫、潰癰、止痛、排膿等、風癩瘡科の要薬として用ひられたり

▲前胡 繖形科に屬するノダケ即ちミツバセリ又はヤマセリの根にして、能く實熱を除き、痰熱、哮喘、咳嗽、嘔逆、痞脹、霍亂、小兒疳氣等を治する爲に用ひられたり

▲水蛭 環節蟲類中、水蛭類に屬するシマヒルにして、折傷疼痛を治し、惡血、瘀血、月閉を逐ひ、血癥積聚を破るものとして用ひられたり

▲水蠟樹 即ちイボタの樹なり(イボタ蠟の條下参照)

外 896
124

いは別本草略解

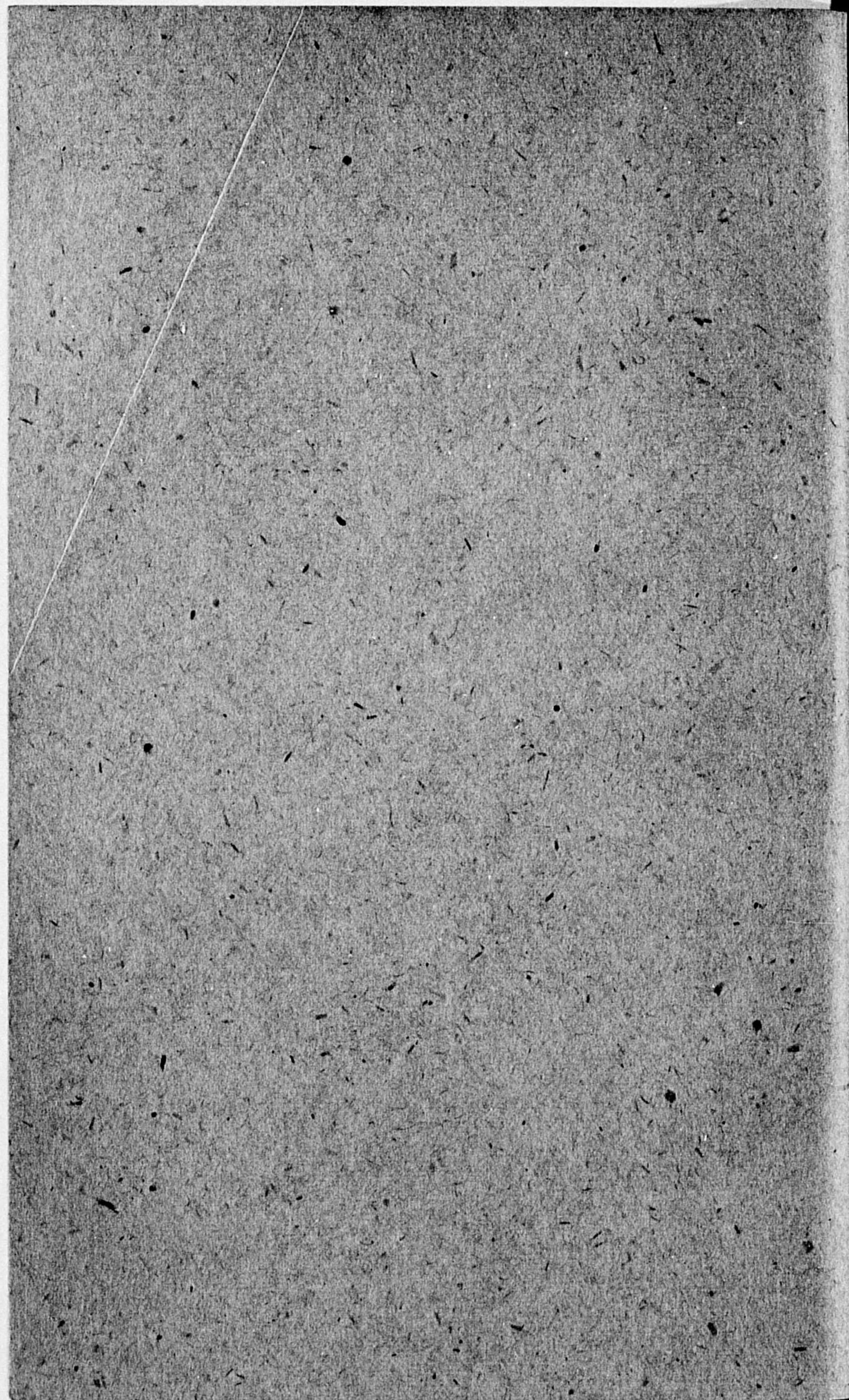
二二六

△六陳八新及禁忌の歌

按ずるに和漢藥中、陳久を尊ぶものあり、又生新の物を用ひざるべからざるものあり、六陳とは一溪道三の所謂「茶黄半夏橘皮狼毒其外に、枳實麻黄の六はふるかれ」にして、八新とは「紫菀薄荷菊花桃花に赤小豆、槐花澤蘭款冬の花」と歌へるものなるが、六陳には更に荆芥、香薷、枳殼を加へたるもあり、或は採藥修製其他に際し、或は銅鐵を忌み、或は火を忌み、或は妊婦には之を忌む外、所謂相反相長と稱して、其配伍を禁ずるものあり、詳細は古書の藥性歌及諸病主藥歌等に譲りて、茲には唯其一二を引用して參考に供すべし

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 六陳橘枳及半夏 | 狼毒麻黄吳茱萸 | 八生款冬薄赤豆 |
| 菊桃槐花澤蘭蘇 | 知母猪苓槐龍膽 | 桑皮寄生五味蒲 |
| 麻黄麥門栝藜芍 | 兔絲牡丹香附菴 | 齒自商陸俱忌鐵 |
| 辰砂雄黄唯銅拘 | 玄參肉果益母芩 | 藜蘆五般銅鐵誅 |
| 菊花薄覆芎芷茜 | 桂檀紫艸丁木香 | 乳香石脂犀羚羊 |
| 胡椒柴陳沈檳榔 | 甘松青黛硝雲母 | 滑石猪苓禹餘糧 |
| 雄黃靈芝龍膽艸 | 香茹辰砂被火傷 | 妊娠禁忌桂附夏 |

欠



欠

終